

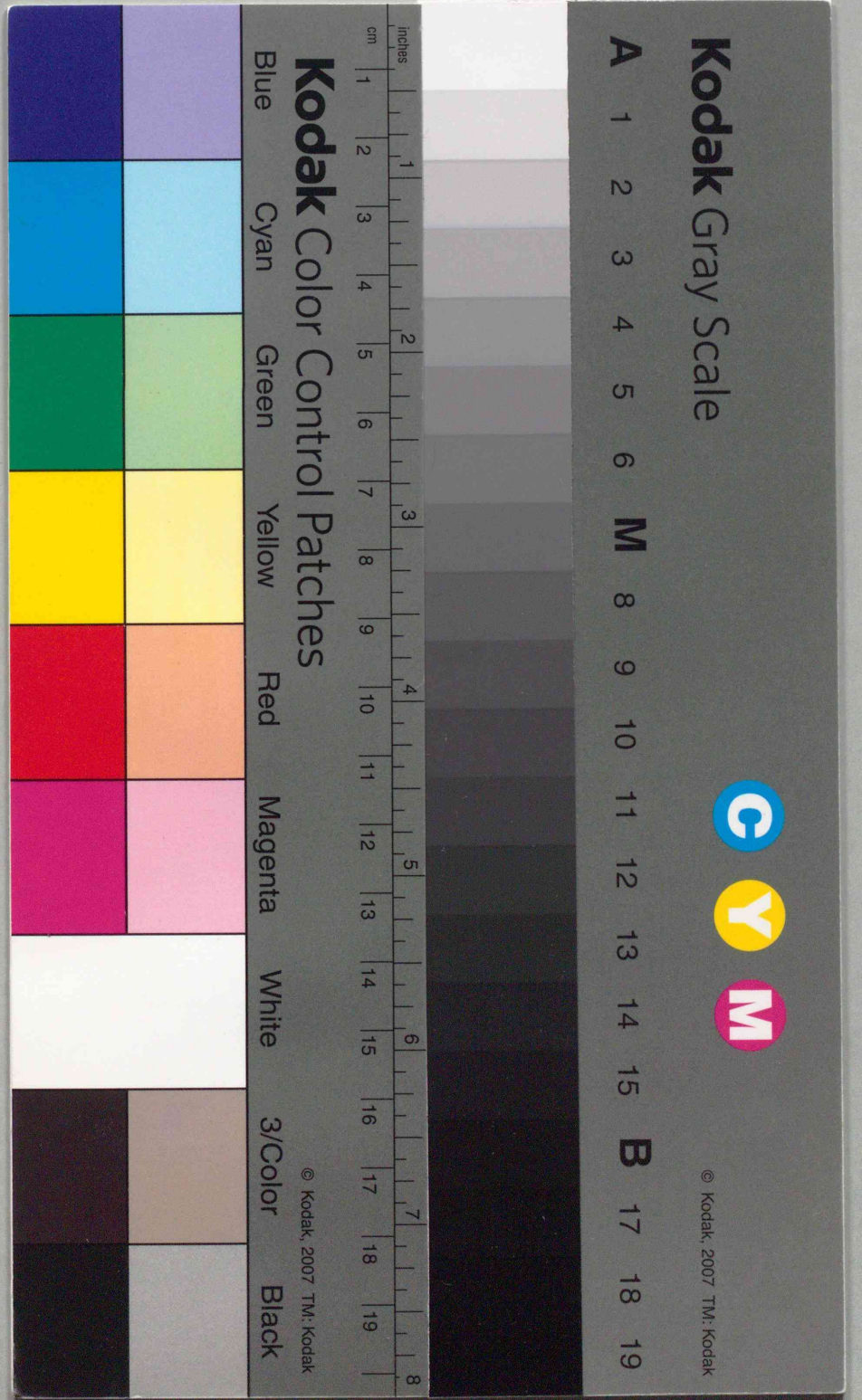
神奈川縣教育

昭和七年一月十日發行

第 二 百 八 十 一 號

卷頭言	九	T
告別挨拶	九	M
年頭所感	九	生
學校と宗教	一〇	一郎
時事感想二題	一〇	作
歐洲に於ける新教育運動(其の二)	一〇	七
教科書挿畫に就て	一〇	祐
再び獨逸より	一〇	三
文苑	一〇	九
本誌發展と講讀者勸誘	一〇	三
郷土の微地形學的觀察に就て	一〇	三
如何に兒童の文を観るべきか(其の二)	一〇	三
複式による三四年と語る	一〇	三
租税の取扱	一〇	三
「素描」對感	一〇	三
講筵	一〇	三
精神と身體の健康	一〇	三
マルキシズムに就いて	一〇	三
世界新教育聯盟ニュース會議とは	一〇	三
質疑應答	一〇	三
掌中曆	一〇	三
彙報(教育會)	一〇	三
報(唱歌科研究協議會速記)	一〇	三

神奈川縣教育會



神奈川高等女學校教諭西塚かほる著

最新料理教科書

定價 金壹圓五拾錢
郵税金 拾貳錢

著者西塚かほる女史は大正八年東京女子高等師範學校家事科の優秀出身者である。進んで同校専攻科を修め、東京帝國大學法科に學び、池田知事夫人と同學である。料理の方面に深い興味を持たれ、斯道の大家に學び、多年の經驗を積まれ、和洋兩面に亘つて隱然として大家を以て見られて居る。東京家政學院の要地から昭和三年四月本校に轉じ、現に女子學習院の教壇に立つたる、佐竹、久米、古賀女史の後を承けて學事科の主任となり、又法制經濟科を受持たる。その書を見るに、御飯の炊き方、野菜の切り方、魚の拵へ方といふ様な概説に筆を起して期節十二箇月の料理に及び、繪入で叮嚀に説明し、すぐに献立の基本になる。著者の非凡なる教育的頭腦のひらめきを十分に示して居る。稀に見る良書として世に推薦する。(校長佐藤善治郎)

發行所

東京市麹町區紀尾井町六
振替東京七一六七〇番

軍事教育會

賀正

昭和七年元旦

神奈川縣廳教務課

教育課長	河邊良平
衛生技師	今井忠宗
縣視學	守屋貫雅
同	森屋高藏
同	龜ヶ谷春吉
同	萩原利邦
同	磯崎覺平
實業教育主事	草野徳義
縣視學	萩田萬一郎

喪中ニ付缺禮

謹賀新年

昭和七年元旦

神奈川高等女學校長 佐藤善次郎

小生の事業につきては常に御厚意に預り有り難う御座います。本校最近の施設は昨年十月財團法人（登記金額二十四萬圓）とした事であります。これ一には二十萬圓に近き寄附に對し、一には學校に永遠性を與ふる考から起つたのであります。回顧すれば本校の發祥は大正三年で、同七年現在の地に新築移轉し、同十年神奈川高等女學校と改稱し、爾來縣立高女と同日に入學試験を行ひ、同十一年精華小學校を附設し、大震災には被害微少、昭和二年には専攻科を置く事になつたのであります。唯今職員四十五名、女學生九百名（卒業生二千九百八十五名）兒童百六十名あります。近來つくづく考へる事は、私立學校の發達は年數の問題で、英米の偉大なる私立學校は

大抵幾百年を経て居る。資産の問題から考へて見ても、金は年四分五厘といふ低利子でも、百年には八十倍になる。故に本校現在の基金五萬圓も、若し据置けば、百年の後には四百萬圓、二百年の後には三億二千萬圓、三百年の後には二千五百六十億となつて、現在の大英國の國富二千三百億に比べて稍多くなります。恵比壽講の話の様ですが、勘定には間違はありません。公立學校も毎年多少の金を積立てる事が、將來の爲に大切であると信じます。それは現在の様に無産階級者が、經濟上の抗争ばかりして居る時代は安全であります。然るに教育上に目覺めて英米の様に中等教育を要求する時代には、解放して無授業料にする必要が起つて來るのは明瞭であります。その時になると經營が困難になるから、早く準備する必要があると思ひます。とにかく私は世の厚意の下に安全に教育に従事して居られるのでありますから、粉骨碎身して働いても猶足らぬと思ひます。公私とも世の賞讃など受くる身分でないと恐懼して居ります。新春の劈頭に於て各位の御厚誼を感謝し、御全家の幸福を祈り奉る。

賀正

昭和七年元旦

神奈川縣教育會

副會長 豐田 潔臣

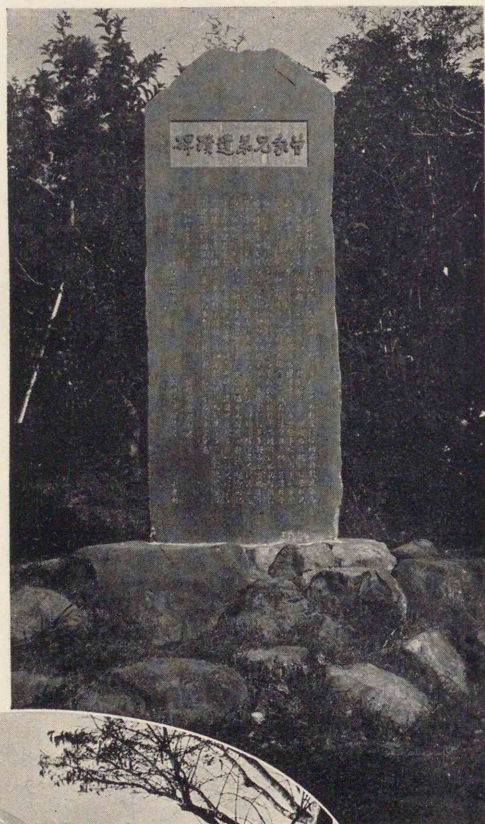
秋山岩吉	齋藤元近	坂田祐	佐々木章	杉崎正義	仙田四五郎	曾根藤三	高城研
瀧澤又市	中根環堂	福田縫太	水島貫藤	守屋貫雅	森本盛太郎	山田成	小田就
吉田	瀧澤又市	福田縫太	水島貫藤	守屋貫雅	森本盛太郎	山田成	小田就
瀧澤又市	中根環堂	福田縫太	水島貫藤	守屋貫雅	森本盛太郎	山田成	小田就
吉田	瀧澤又市	福田縫太	水島貫藤	守屋貫雅	森本盛太郎	山田成	小田就

喪中ニ付缺禮

理事

理事 吉田 清太郎
主事 結城 權兵衛

曾我兄弟遺蹟碑（足柄下郡下曾我村曾我谷津城前寺境内にあり）



初春の

狩場大鼓や

木挽町（清太）



山士富のりよ峠女乙

小袖曾我

十郎サシ
五郎

「時しも頃は建久四年。五月半の富士の雪。五月雨雲にふりまぜて。かのこまだらや羣山の。裾野の鹿の星月夜。鎌倉殿の御狩の御遊。げに類なき御事かな。十郎「東八箇國の兵ども。

皆御供に参るなれば。

十郎
五郎
(四人)

定めて敵の祐經も。御供申さぬ事あらじ。たとひ撃つまで

の。事は夏野の鹿なりとも。狙ひて見ばやとますらをの。狩人に紛れうち出づる。下歌人
知れぬ大内山の山守も。上歌。木隠れて。それとは見えじ梓弓。それとは見えじ梓弓。矢ご
ろにならば鹿よりも。祐經を射とめて。名を富士の嶺にあげばやと。思ひ立ちぬる狩衣
例へば君の御咎。よしそれとても數ならぬ。身にはなか／＼懼なし身にはなか／＼懼なし
地上「此ほど時致が。つくす心にひきかへて。今はいつしか思ひ子の母の情ありがたや。あまり

の嬉しさに祐成お酌に立ちとり／＼時致とともに祝言の。謠ふ聲。十郎「高き名を。雲居
にあげて富士の嶺の地「雪を廻らす。舞のかざし。男舞(二人) 舞のかざし。其ひまに。舞
のかざし。其ひまに。兄弟目をひき。これやかぎりの親子の契と。思へば涙もつきせぬ
名残。をしかの狩場に遅参やあらんと。暇申して。山。富士野の御狩のをりをえて。
年來の敵。本望を遂げんと。互におもふ。瞋恚の焰。胸の煙を富士嶺に。晴らして月を。
清見が關に。遂には其名をとめなは兄弟親孝行の。ためしにならん。嬉しさよ。

卷頭言

鳥兎匆匆多事なりし昭和六年も去り、茲に一層多事なる新年を迎ふる事になりました。自分は例年の慣習に従ひ、宮中御歌會の勅題に因みて、本年も亦所感の一端を述ぶる事にする。一日の計は晨にあり、一年の計は元旦にありとか、本年の勅題「曉鷄聲」は、畏れ多くも幾多の國難に對する一大警鐘として、隋眠を打破し、國民を覺醒する上に深き意義あるものと思ふ。先づ腰折れ數首を並べて見る。

には鳥の聲はうつゝに聞きながら

聞はなれうき冬の朝かな

老か身もなとかおくれんには鳥の

なく聲たかしふゆの曉

もろこしの我が丈夫やいかならむ

曉さむくには鳥のなく

戦の雲も晴れなむほからかに

あかつき告ぐる鷄の聲

第一首は赤裸の告白であり、弱點多き人間の本音であらう、併し經濟國難と思想國難に加へて、新たに滿洲事變といふ重大なる危機に直面しては、心あるもの、誰かは感奮し緊張しないものがあらうか。殊に今や滿洲の荒野に大敵と極寒とに對し惡戰苦闘しつゝある我將卒を思ふとき、何人も第二第三首の感を同くする事を疑はない。しかも如何なる國難も之れを打破し、如何なる危急も之れを突破し來つた事は、我國史が明かに之れを證明して居る。其様、恰かも朗らかな曉の鷄聲によりて戰雲も暗雲も一掃するの概がある、これ我國體の尊嚴であり、我皇道の威靈である。然らば此大難局に處する我々の覺悟や如何、我々の努力や如何、これが御互の特に留意すべき點ではあるまいか。

抑も我國の直面する國難中、内憂として思想問題、外患として滿洲事變に若く重大問題はあるまい、而かも滿洲の事局益々擴大するに伴ひ、赤化の手は愈々深刻となるべく、此點我々の最も苦心し最も警戒すべき緊急事であらねばならぬ。滿洲事變は我國の死活問題である、而かも革命の連續とも云ふべき支那の歴史と常に不安定なる民國の國情とに見ば、何人も滿洲の獨立を希望し、これと握手して共存共榮を圖る事の至當なるを認むべく、此大目的を達成するまでは、飽くまでも條約と正義とに即して我生活權の爲め國運を賭して勇往邁進せねばなるまい。然るに事の軍事に關し、又政治に關する以上、我々の如何とも爲し能はざる所、只至誠奉公、直接間接に各々其本分を盡すより外に道はない。

思想問題に至つては、世界の趨勢と時運の然らしむる所とは云へ、其責任の一半は教育者自から之れを負担せねばなるまい、そして教育者の力によりて之れを善導せねばなるまい。抑も斯の如き事態は、今日の社會制度、今日の經濟組織の持續する限りは早晚來るべき運命にあるので、必ずしも驚愕し危惧するを要しない、寧ろ一種の強烈な刺戟とし、一種の危激なる警鐘として進んで惰眠より覺醒すべきである。國體を異にする二國に於て、ロシア其まゝの共產主義が日本に移植さるべき道理はない、此の如き非望の企ては如何なる惡魔が出現するとも必ず之れに對する適法は發見さるべきもので、又發見せねばならぬ必然的のものである。若し共產主義にして、我國に移植さるべきものありとせば、开は我國體と融合併立すべき分子であらねばならぬ、共產主義も我國體に即し皇室中心主義に共鳴してこそ始めて存立の價值あるべき事は、我國史の成跡に照らして昭々乎たるものがある。古代に於ける儒教、佛教已に然り、近代に於けるキリスト教と歐米輸入の其他の文化と皆然らざるはない。即ち如何に世界の長を採り、我短を補ふか、尙ほ進んでは劇藥も亦醫療として効果多きが如く、世界の短も弊も尙ほ且つ之れを利用して、我國運の刷新と發展とを圖る資料とし、益々同化作用、消化作用を旺盛にし敏活にするのが我々國民とし、殊に教育者教導者としての任務であり、天職ではあるまいか。悲觀の要は少ない、曉の鷄聲の如く朗らかな氣分で活動するならば、必ず神明の加護も天祐も加つて、平和と榮光とを獲得する様になる事は信じて疑はぬ所である。

告別挨拶

不肖圖らずも今回群馬縣内務部長に轉任を命ぜられ、遽に本縣を去ることになりました、不肖在職實に三年有七ヶ月、其の間本縣教育會長並に教員互助會長の重職を冒しましたが、元來微力短才、加ふるに不敏不徳の者でありますため、何等貢獻することなく徒消し來りましたことは今更慙感に堪えない次第であります。

回顧しますれば不肖就任當初の本縣の實情は彼の震災の瘡痍猶未だ癒えざるに、會々政府の財政緊縮方針は更に重きを加へまして、ために諸般事業設營の伸展を阻碍したことは、實に止むを得ないことではありましたが、一面又時相に考へ及びては常に多々遺憾と致した處でありました。

殊に我が帝國關門の一部面たる本縣の教育界としては幾多の改善刷新を要すべき企劃の尠くなかつた事は謂ふ迄もありません。

然るに幸にして郡市各種團體の要位に在らるゝ各位は申す迄もなく、全縣下の教育に従事せらるゝ諸彦に於かせられても、平素克く吾々の意圖を體得せられ、或は學校教育に、或は社會教育に、或は思想善導に、陰に陽に是等文教發展のため努力精進せられ、近時特に一段の面目を活躍發揮し得たことは、全く各位の協力一致と忠實に奉公の誠を盡された結果に他ならずと信じ、不肖の洵に欣懷を禁じ得なかつた處でありました。

去れば今や愛着の念いや深き本縣を去るに當り、且らく纏綿の私情を外にして不肖に寄せられたる多年の高誼と、絶大の御援助とに對し、此に深甚たる感謝の意を捧ぐると共に、若夫れ嘗て過つて尊意を冒瀆せることの如きは重ねてその罪を膝下に謝する次第であります。

時恰も寒威凜烈の折柄、各位愈々御自愛御自重あつて、現下内外共に多事多難に局面せる邦家教育のため、益々御健闘あらんことを切望して止みません。

行李蒼卒の際、聊か蕪辭を陳べて告別の挨拶に代へます。

九 鬼 三 郎

年頭所感

神奈川縣知事 遠 藤 柳 作

今回圖らずも本縣知事として乏しきを承け縣民各位と共に茲に昭和七年の新政を迎へ得ました事は洵に欣快と存じます。

新年の初頭に當り謹んで 聖壽の無疆竹の園生の彌榮 を言祝さ奉り縣民各位の協力に頼り彌々縣

勢の伸展に力め至誠奉公を祈念致したいと存じます。
願れば昨秋滿蒙の地に事變勃發以來皇軍將士は嚴寒朔北の地に暴露し身命を捧げて克く在滿同胞の生命財産の擁護に任じ帝國の權益確保に努力しつゝありますことは縣民の倅しく深甚なる感謝の意を表する所でありまして今や我が國威は益々中外に宣揚せられ國際親善の誼亦愈敢きものあるは洵に御同慶の至りであります。

諸未だ就任以來日淺くして縣政諸般を詳にしませんけれども大震災の創痕未だ癒えざるに世界的財界の不況の影響を受け縣財政も頗る窮乏致して居ります、數年來財政の緊縮を致して參つた様な状態でありますが此の難局に立ち微力ながら全幅の努力を傾注し得ます事は眞に本懷と存ずる次第であります。忝くも舊臘中縣下丹澤山外五ヶ所の御料林を本縣に御下賜に相成り其の面積は實に七千六百餘町歩大部は鬱蒼たる大森林であります、天恩の優渥なる洵に恐懼感激の極みであります、管理に經營に最善を致しまして縣民の福利増進に資し以つて 聖恩に對へ奉りたいと存じます。

茲に新年の初頭に當り所懷の一端を申述べ、縣民各位の一致協力に賴り倍々縣勢の進展國運の興隆に邁進せんことを冀ふ次第であります。(終)



學 校 と 宗 教

本會理事

關東學院
中學部長

坂 田

祐

近來教育に關する諸種の會議に於て、思想善導に必要な事項の一として、必ず宗教的信念の確立が高調せられ或は議決せられる。而して殆どすべてが既成宗教によらざる信念を力説する。

一體既成宗教によらざる宗教的信念とは如何なるものであるか、何れの會議に於てもその内容は説明せられてゐないやうである。

原始人や未開人の天然崇拜などの自然的宗教は、文明人には信じられない。ことに普通以上の教育を受けたものには受け入れられないは勿論である。さりとて宇宙の本體とか實在とかいふ哲學的觀念では、吾人の實生活に沒交渉であつて、指導の力とも原理ともならない。吾人の日常の生活に影響する信念(嚴格にいへば信仰といふべきであるが)の對象は、神にせよ佛にせよ人格的のものでなければならぬ。從て倫理的でなければならぬ。最も進歩せる宗教は倫理的宗教である。これには種々あるが、其中に於て最も大なるものは、基督教と佛教とである。我國に於ては神道も之に加はるであらう。

思想を善導することが出来る宗教的信念は、倫理的でなければならぬ。日本に於ける倫理的宗教は、神道も佛教も基督教も、既成宗教である。これ等の既成宗教によらずして、如何にして倫理的なる宗教的信念を確立するか。多くは既成宗教は無力にして新時代の要求を充たすことが出来ないといふ。何れの時代にも既成宗教の無力を慨し、その改革を企つる

ものがある。カール、ヒルチーの幸福論に次のことが書いてある。

或る新宗教の建立者が、頓才あるタレラン侯爵の前に出て、其新宗教の組織を陳べ、之を以て基督教に代へんとて賛成を乞ふた。タレランは大に之を賛して、只た一の事が新宗教の完全なる成功を奏するに缺くる所あるやうだと言ひ、曰く、

「基督教の建立者は其教の爲に十字架に礎せられた。予は君も之を爲さんことを忠告する」。

既成宗教には何れも基督とか釋迦とか、教祖の偉大なる人格がある。その人格を通して信仰の對象に接するのである。かゝる偉大なる人格なくして大宗教は起らない。教義を理論的に組織しただけでは、活きた宗教にはならない。されば吾人に力を與へ指導の原理を與へ、吾人の生涯を支配し、思想を善導するに足る宗教的信念は、遠き未來はいざ知らず、現在に於ては、既成宗教によらずしては出來ないと確信するものである。既成宗教の教義の解釋及び適用は、時代によつて進歩發展すべきはいふまでもない。従て宗教的改革はあるべきである。

既成宗教によらないでは、生涯を指導するに足る宗教的信念の確立が出來ないとしたら、吾人學校教育に従事して居るものが、如何にして生徒にその既成宗教の信念を植付けることが出來るか。官公立學校及學科課程に關し法令の規定ある學校に於ては、宗教の教育及儀式は學校として之を行ふことを文部省の訓令によつて禁ぜられて居るから、宗教は如何なるものであつても之を授けることが出來ない。宗教上の儀式も之を行ふことが出來ない。

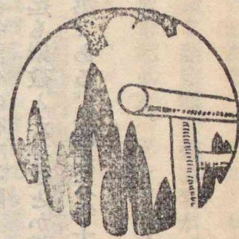
故に上記の學校に於ては、宗教的信念の涵養は學校としては之を爲し得ないのである。官公立學校に於ては、文部省の訓令に示す如く、宗教と教育とを分離するのが當然である。宗教上の信仰を異にする國民の税金を以て支持する官公立學校に於て、或る既成宗教を取り入れることは出來ない。さればとて既成宗教全部を入れることは事實に於て不可能である。私立學校は經營上官公立學校と異なるから、或る既成宗教を取り入れて差支ないと思ふが、併し現在のところでは、中學校とか高等女學校とか、學科課程に關し法令の規定ある學校に於ては、禁ぜられて居るから宗教教育は出來ないのである。

近來或る私立學校の團體に於てはこの訓令が改められるやう運動を起してゐる。未だ實現しないが、早晚實現することと思ふ。

この訓令は學校の事業として之を行ふことを禁ずるのであつて、有志の職員生徒が學校の課業時間外に、學校内に於て宗教的集會を爲すことを禁ずるのではないのである。或學校に於ては之をも禁じて居るといふことを聞くがそれは誤つてゐると思ふ。中學校長會議に於て、此問題が度々文部當局に質問せられるが、文部當局の答は、學校として之を行ふことは訓令によつて禁ぜられて居るが、職員生徒の有志が授業時間外に學校の一室を借用して、宗教的集會をなすことは差支ないのみならず、大に便宜を與へてよろしいとのことである。

宗教的信念を涵養することが、修身教授の効果を良好にし、思想善導に必要であると信するならば、學校に於ては職員生徒の有志からなる宗教的團體、即ち基督教青年會とか、佛教青年會とかの存在を許し、差支なき限り校舎の使用を許すべきであると思ふ。現在全國に亘りて大學専門學校中等學校等の官公立諸學校に、佛教青年會、基督教青年會等の宗教團體が職員生徒の有志によりて可なり多く組織せられてゐる。

次に神社に就いて一言したい。現在では神社は内務省の所管で宗教ではない。神社に於て儀式を行ふ神道は文部省の所管で宗教である。中學校高等女學校小學校等は、官公立であつても、私立であつても、學校としての神社參拜は、前述の文部省訓令の存する限り、宗教上の意義を持たすことが出來ない。従て禮拜等の宗教上の儀式を行ふことが出來ない。どこ迄も崇敬とか尊敬とか道德上の行爲に止まるのである。されば神社參拜によつて宗教的信念を確立することは出來ない次第である。(昭和六年十二月九日)



時事感想二題

本會理事

森 丑 太 郎

其の 一

思想國難。經濟國難。あまりにも感傷的な今日の時代の人々を悩まして居る言葉である。否事實である。思想國難今に於て此の語が生きてゐてしかも深刻な國民的悩みである事は、國民精神作興の詔書を拜する時、苟も社會教育化の任にあるものゝ齊しく恐懼措く能はざる所であらねばならぬ。論者は言ふ。現時マルキシズムの横溢する趨勢にあるのは國民の自覺が進んだ結果であるとか、體系ある哲學それを要求する青年輩の眞實であるとか、我が國には否世界のいづれにもマルクスの思想體系の如き整然たるものがないからだとか。果して國民の自覺が高まれば暴力革命も敢て辭せぬであらうか、祖國の意義すらわからぬ様になるのであらうか、我が國には果してさうした整然たる體系を持つた哲學がなかつたであらうか。指導地位にある人々に反省を促す言葉としてもあまりに諷刺ではあるまいか、あらゆる人を單なる經濟人として見た場合或は社會を有と無との二階級のみとして見た場合辯證法的理論は成り立ち誤れる實行運動に入るかも知れぬが、人間すべてが單なる經濟人ではない。また彼等の尊奉する唯物辯證法には可なり獨斷があるではなからうか、社會は彼等の言ふ如き有と無との二階級のみではない。もし階級なる言葉を用いるならば社會には無限の階級がある。自分は有産階級無産階級といふ様な言葉は用いたくない。むしろ境遇といふ言葉が適當であると思ふ。いづれにせよ現實に吻合しない所論は徒に世を惑はし人を毒するの結果を將來するものであると思ふ。またマルキストは人物として優秀であり頭腦

明晰表現能力に於ても戰闘的態度に於ても斷然衆に卓越して居るといふ人があるが、苟も國民である事によつて完全なる人間生活の出来る事すら忘れて抽象的な處も位も無視して理論の上に極樂世界を夢見るやうな者が果して正しき優秀なる人物であらうか、そんな者が頭腦明晰なりと云ひ得るであらうか。さてまた我が國にはマルクスに匹敵する立派な體系の整つた哲學がなかつたであらうか、なかつたと云ふ人は研究が不足であるのか又は假名書きの人名か横文字の有難さに叩頭頓首して居る人であると言ひ得ると思ふ。少くとも我が神奈川縣人はそんな哲學はなかつたなどと言へば縣人としての恥辱であると思ふ。即ち我が神奈川縣の生んだ世界的偉人二宮尊徳翁の創めたる報徳の教義は立派な哲學である。整然たる體系の整つたものである。マルクスの研究は十年を要すると言ふてゐらさうに崇拜するが、我が尊徳翁の教義も彼の一萬卷の遺書を精細に研究するのはそれ以上かゝる。何年かゝるから立派だといふのは所謂こけおどしである。マルクス派の連中が焦慮して居る貧乏退治は疾うの昔に於て尊徳翁によつて實現されて居る。しかも有産階級の破壊とかいふ過激手段によるのではなく、天祖開闢の大道に則り貧乏は貧乏の力によつて起き上る方案である。自分は此の際特に我が神奈川縣に於ける教化事業に關係あるものが打つて一丸となつて尊徳翁の報徳の教義研究の機關をつくりその整然たる思想體系とその社會救済の偉大なる實効とを恰く中外に宣揚して、その我が建國の三大綱に即して世界の大理想を事實に表現したる報徳の教義を闡明し、このみじめな世態を救済し永遠に興國安民の實現に精進したいと思ふ。敢て縣下一般特に教化の任にあり指導の地位におる人々の共鳴を念願する。

其の 二

凡そ事の善惡正邪を批判するに當つてはこれを激定する規準を要する事は言ふまでもない。我が國體の世界無比なる所以、日本人としてこの國に生れたる愉悅を感得せしめて眞に國民的自覺を持ちその本分の遂行に邁進せしめようとするには、語を換へて言へば日本國民として眞に世界文化の發展に貢獻せしめんとするには明らかに我が肇國の宏遠なる事を感得せしめねばならぬ事は勿論である。是に於て自分は小、中學校の國史の教育に聊か希望があるのである。國史とのみはす歴史を教ふるに當つて古代は粗に近現代は密にといふやり方は一般的方法のやうである

が、自分は敢てそれを不可とは言はないが、古代と雖もすべてを粗にしてはならない。我が國史の教育に當つて特に留意してほしい點は、天祖の御神勅は申すまでもなく、天孫降臨については特に君主としての天孫、民祖としての天孫について、神武天皇の御東征に當つて饒速日命との關係を明快に解決を與へて置くやうにしたい。即ち三種の神器の神寶との關係を明らかにすることは是非重要な事であつて和氣清麿の復命の言葉もこれによつて明らかに肯れるのである。國體觀念を明徴にする上に緊要缺くべからざる所であるがどうもこの點が教科書の文字通りにして簡單不明瞭に済ましては居るゝだらうか。尙崇神天皇の條に於ても、神宮皇后の分離即字廟開放の御英斷については十分に其の聖慮を伺ひ奉らしめたい。また聖德太子の十七憲法についても太子の世界文化統融の御精神を感得せしめねばならぬ。憲法第二にあげられたる「篤く三寶ヲ敬へ」の條項を不用意にも住持三寶と解して太子の佛教御宣布位に説く事は慎まねばならぬ。一體三寶の意義を十分了得させるやうにしたい。かくして明治天皇の日本國體の世界的宣揚に對比して眞に我が國體の尊嚴無比なる所以を知らしめ、國民たるの志操愛國の至情涵養をはからねばならぬと確信する。

可なり長い年月に亘つて中等學校入學試験には或は心理學的立場とかいふ事から國語算術の二科目に限られたやうな傾きがあり國史地理理科の如きはほんの補助科目位に取扱はれたといふ處から、中には誤れる準備教育の爲に國史教育等は極めて疎にした嫌ひがあつたではなからうか、そんな子供が中等學校に入つてから間もなく西洋歴史の教授を受け名譽革命などを面白く説かれる事によつて國史教育の基礎の薄弱な所から來る弊害は實に將來然るべきものがあり何時迄も正しき我が國體が見えない、口だけに神聖無比なる國體など、答へても實は明確に把握して居ない。「うれしわれ日本人なり」の信念が出來て居ない事は一は憐むべく一は恐るべき事である。天祖肇國の御精神はどうしても確に次代の國民の腦裏に刻み付けて置かねばならぬことを痛感するのである。私の以上の言葉が杞憂であるならば誠に喜びに堪へない處である。尙私の數年來極めて狭い範圍に於て實際に承知して居る事であるが、高等小學卒業生に國歌君が代を完全に書き得ないもの、我が國の紀元年數を誤り知れる者が案外多いといふ事實である。これは餘りによく知つて居る筈との油斷から來るのでもあらうか、さうしたやうな國民常識とか國民儀禮とかいふ方面にも相當注意を要する數々の有するものがあるではあるまいか。



歐洲に於ける新教育運動

(其の二)

文學士 山口幸之助氏

三、佛蘭西に於ける新教育運動

佛國に於いて新教育運動を知らんとするものは他の諸國と同様私立學校に於いて見るべきである。併しかのルソーの生れた國として新教育に關する發展は見劣りのするものがある。小學校教育については二、三の實驗學校を有するに止る。例へばロトジエー・クージエーは集團教育を實施しその方面に貢獻してゐる如きである。彼の學校は定つた學科課程をもたず又單なる個人的の仕事もない。生徒は自ら組織せる自由集團に生活し、仕事は遊戲の模倣においてつゞけらるゝ即ちこの方法によつて兒童の間に協同の精神を養ひ分業が行はれ指導者はかゝる集團をよりよきものへと導く。クージエー氏のいふところによるとこの組織においては兒童は學友の能力を發見し自己教育へのよき方便をあたへると述べてゐる。

(A) エコール・ヅ・ロツシュ

中等教育に就いて考へてみると第一にあぐべきものはエコール・ヅ・ロツシュであらう。この學校はノルマンディーのベルネイユの近傍にある。進歩的な寄宿學校であつて一八九九年に創設され、設立者はエドモンドヅモリン氏である。彼は英國のパブリックスクールを研究しリセーの生徒は道德的に知的に又身體的に不十分なるものがあると考へ新學校の建設に志したのである。かくしてエコールヅロツシュは健康なる身體、廣き修養されたる精神、獨立奉公への理念をもち、獨創力あり自尊心に富む人間を陶冶せんとするものである。ヅモリン氏は一九〇七年に死んだのであるが、現在はジョージ

ベルチーエ氏校長の下に盛設を極めてゐる。數個の寄宿舎、實驗室、工場、禮拜堂、學校病院は立派なものを持つてゐる。現在生徒數は大體三百人位フランス人が大部分である。この學校について又注意すべきことは農業學校を附設してゐると云ふことである。將來農業經營に従事せんとするものを特に教育する。元來このエコール・ロツシュは家庭的な生活を重視し又生徒の學識も高く、美術は重んぜられ又スポーツ、手工業、ボイスカウト等の組織をもつてゐる。教授法も仲々新式である。現代外國語も教授するが大體は外國人の利用するためのもので期間は三ヶ月から一ヶ年間位である。而してその際生徒は順次に外國に送られ外國語を學習するの機會をもつことが出来る。作業は隔日の午後に行ふ。大工、金工、モデリング、窯業、製本、革工、バスケット作成、庭園手入れ等を實施してゐる。作業のない日の午後はスポーツに用ひられるのが普通である。寄宿舎は室長制度を採り一年に數回寄宿舎の棟を單位として音樂會を行ひ又時折遊戯會も實施する。一年に一回マルデイ・グラには假面舞踏會を行ふことになつてゐる。禮拜堂は二つある。新教徒と舊教徒のためである。宗教は道德的陶冶に大切なことと考へられてゐるので宗教教授は實施されてゐる。これはフランスの公立學校には見ないところで注目し値する。

(B) エコールドリールフランス

この學校はパレーソーに存在してゐる。國際的友情をすゝめるため教育の國際的中心を以て任じてゐる。生徒は故に各國民を包含し校長は國際聯盟を生徒によつて作る。即ちかくの如く各國民を一九として教育することが國際平和を促進させることに役立つと考へるのであつて確かに相互の理解への効果はあげられてゐると思はる。

(C) コレッツドノルマンディー

これも新學校の一つにあげ得ると思ふ。新學校の理念に向つてすゝんでゐるがなほ保守的なところ多く實施してゐるところは他の學校と大體同様特に特長といふべきところはない。

(D) シャーティー・ド・ブル

數年前アメリカ人であるボブキンス博士に依つて作られた學校でパリ近くの古い屋敷跡を利用してゐる。本校の特は色全世界を浮彫にした大地圖のあることである。約一エーカーの土地に涉り自然の土地を利用するものである。こゝには縮少された山、平原、瀧があつて主なる海岸線はセメントで作られてゐる。陸地は水を以て圍まれ大洋を形造る。其處を少年達がボートに乗つて地圖によりアメリカ、ヨーロッパと一週する。即ちこれは直接教育視覚教育を主張するものであるが、かかる大模型を作るのは費用のかゝることであるので最近では獨逸のオーデンワルドシュレー、或は英國の新學校と組合を作り生徒を交換する様になつたといはれてゐる。

以上大體フランスの新學校を概括的にのべたのであるが他の諸國と比してあまり顯著でなく又その影響も少い。

四、デンマークに於ける新教育運動

(國民高等學校の建設)

三代以前における丁抹は全くじめな状況にあつたのであつて土地はやせ、農民は無智であり貧乏であり見る影もなかつたのである。然るに十九世紀における彼等の努力は實にめざましいものがあり、その結果全く面目を一新してゐるのである。大地主は無いが極端な貧乏人は殆どない。三〇〇エーカー以上の地主は少く、大體三〇エーカーから四〇エーカー位のものが多い。なぜかくの如き小農組織による農業を以てしてよくヨーロッパにおける唯一の農業國にまでデンマークを作り出したのであるか。何故に大農組織の諸國によく對抗しうるのであるか。その理由は一つは彼等の協同方法であり他の一つは最近百年間における農民の知的覺醒によるものである。歴史的に考へると一八六四年のペルシャ軍の敗戦は大いに國民を刺戟し教育は勃興し現在盛大を極める國民高等學校も増加されたのである。この覺醒運動の指導者として有名なのは國民高等學校の父であるニコライグランドウイヒである。彼は一七八三年にシラランドに生れ、若くして深き原教的詩的天才を示し青年時代においてすでにスカンジナビア神話集を出してゐる。これ彼が衆人の注意を惹いた初めである。彼は多くの詩を書いて人心の轉換に努めたのであるが、彼は更にすゝんで生きた言葉による教育の必要を痛感し學校

建設を試みたのである。彼は功利主義の教育や古典學校を好まなかつたのであつて、むしろ宗教的見地に立つたものである。彼の學校に於いては定つた教授法はなく又試験も行はない。學位もない。而して教授はあくまで生きた言葉を以てなされたのである。聴衆の精神力を開發し想像力を養ひ國家を壊滅より救ふ情の陶冶に意を用ひたのであつて無月謝であつた。この學校は生徒の年齢を十八歳より二十五歳までに限つた。即ち彼はこの位の年齢にならないと彼の理想は理解されぬものと考へたのである。この考方が以來國民高等學校に結びついてゐるのである。

初期においては人々は彼を狂人扱ひにしたのであつたが、彼はその後英國にわたり彼の理想に新しき熱を加へるに及んで世人の理解を得るに至つたのである。實際活動人の立場より政治的、宗教的自由を説き人民が政治に參與するのにはまづその知を啓發すべしと考へるに至つたのである。彼の學校は十分具體化されないで終つたが類似の多くの學校の出現を見たのであつた。グルンドウイツヒについて注意すべき人はクリステン・コルド氏である。彼は一八一六年貧乏な靴屋の息子として生れたのであるが熱を以て教師となりグルンド・ウイツヒの影響をうけて北部シュレスイヒに國民高等學校を作つた。しかし彼の本を用ひざる宗教教授が當局の怒にふれ彼はそこを去りシミルナに行つた。

一八四八年の戰爭には一度歸つたが後リスリングに學校を建設した。彼の宗教的確信は大きな影響を生徒に與へたのであつて、かつてある生徒がコルドに向つて國民高等學校の目的を尋ねた時彼の答は次の如くである。

「君は君の時計を巻くからまわるのである。私は君が止まらない様に巻くのである」と。彼は彼の生徒にノートを取ることを許さなかつた。又グルンドウイツヒと同様簡単な生活を理想とした。この學校も始めは男子のみのためであつたが一八六二年以後においては女子の入學も許したことは注目に値する。

コルド氏について注意すべき人にルードウイヒ・シュレーデルがある。彼は南ユトランド半島のデンマーク人のために國民高等學校を建てた。シュレーデルはコルドの如く天才ではないであらう。しかし眞のグルンドウイツヒの弟子であるといへる。彼は農民の力であり農民の優れた指導者であつた。仕事が人間を高貴にするとは彼の信念である。又國民高

等學校を家庭的なものとしたのは彼と彼の妻の力である。今日における國民高等學校の内部に充つる家庭的感情はこゝに源を發するものである。シュレーデルの學校の特色は更に科學を取り入れ、宗教との和合を計つた點にある。グルンドウイヒは人間精神の源を歴史の中に求め、シュレーデルは新時代に應ぜんとしたのである。又シュレーデルの學校の活動はひろく全デンマークに及び國民大學の形をとつて規則的學生の他に週期的講義を開催してすべての人を包含せんとしたのである。この種のやり方は現在多くの國民高等學校に於いて行はれてゐるがその源はこゝにあるのである。すでに述べた如く國民高等學校は元來功利的のものであるが農業學校を併置してゐるところもある。この農業學校の設立についてはJ・C・ラ・クール氏の努力を知るべきである。彼はリインビーに農業學校を獨立に作つてゐる。

大體以上は歴史的に國民高等學校の經過を見たのであるが現状について少しく詳論を加へてみようと思ふ。現在の學校も歴史的傳統的精神に忠實である。なほ生ける言葉を信じ歴史的唱歌の精神的價值を疑はぬ。又學校は出来るだけシンブルである。そしてその雰圍氣はあくまで家族的であり友情は暖く生徒と教師との結合は立派である。たゞ遺憾なことは往時の熱を欠いてゐることであらう。教授についていへば討論及び形式的講義法も加へられてきた。又社會的經濟的方面がかなりに重きをなし歴史、神話が力を失つてきたことも注目に値する。現代における國民高等學校は又その影響を國內に止めず國際高等學校がエルシノーアに作られてゐる校長はマンニツチ氏である。即ち本校は國際的理解を通して平和をすすめるのを目的とするのでありエルシノーアに萬國新教育會議が開催されたことのあるのも意味がある。又國民高等學校の觀念を都會工業階級の人々にまで及ぼすためにコペンハーゲンに學校が建設されてゐる。

現在(一九二九)デンマークには約六十の國民高等學校があり生徒は約一萬人である。學校はしばしば花壇に取り圍まれ森のかけ等に建てられてゐる。生活は素朴で自由、よく唱歌の歌はれてゐるのを聴く。又全校體操もしばしば見學者の目撃するところである。デンマーク人は體操については發達をしてゐる。而してその體操はいずれも優雅である。新體操の第一人者として現在デンマークの體操界を支配する人は最近來朝せるニルス・ブックである。彼はフイエンのオル

ラッパに特殊の學校をもつてゐる。一九二八年の夏期にはアメリカの若い一團の婦人が講習に参加しデンマーク體操を紹介してゐる。

以上四節にわたつて英佛獨デンマークの新教育に就いて述べたのであるが、その教育改造者の熱情に對して我々は尊敬の念を拂はざるを得ない。翻つて本邦の現狀を見るとかゝる向上への情熱において不十分なものがあるのではないかと思ふ。すべからく先輩の跡を参考とし獨自の立場より大いに研究すべき必要があると思ふ。

本邦中等教育の實際について著しく感ぜらるゝ欠陥に大體三つある様に思ふ。第一はすでに繰返さるゝ如く注入主義の弊である。中等教育が小學校教育より進んで高尙な必要なる知識を與ふべきことには異論はない。然し徒らに論理主義の見地より抽象知識の注入に努むるのは教育的教授とはいへない。一面生徒の心理を考慮すべきであり又素質にもとづく教育が必要である。教授の結果を不可解なる機械的記憶に終らしむべきではない。一面自學自習の風を養ふと共に社會的協同への精神を養ふべきである。默して講演を記憶せしむる如き方法はすてゝ自發による勉強をすゝむべきである。

自學自習の態度は消極的な學習學校において養はるべきものではない。自學自習は生徒の自發活動に依存し、自發活動は生徒の努力及び興味關聯に於て成立する。價值あるものを欲求するの態度の養成が根本である。

第二の欠點は形式的知識尊重の弊風である。デモクラチックな社會に於いて多數の生徒を取扱ふ中等教育はより社會的實際的なものへの考慮を必要とする。特に從來上級學校への試験準備に支配されてゐた中等教育は思ひ切つた改革を必要とするものである。現代においては少數者の幸福のためにする多數の者の不幸を許さない。

第三の欠點は訓育乃至訓練に關するものである。現代中等教育に於ける訓練の不振はその一つの原因を遠く主知主義的傾向にもつてゐると思ふ。明治初年以來外國文化の取り入れに急であり現今においてもなほその弊風を受つてゐる様に思ふ。勿論廣く知識を世界に求むる必要は大切なことであるが現代中等教育がそのために訓育を等閑に附することは出来ないものである。實業學校に於ける實利的主義主知主義中學校に於ける形式的主義主知主義は現代中等教育に於ける訓育不振の責

一端を負ふべきである。更に訓育不振の第二の原因として考へらるゝものに注入主義的訓練一點張の弊風がある。從來訓育乃至訓練と云はるゝと單なる機械的反復による習慣構成と考へられ勝であつた様に思ふ。勿論習慣構成は必要のことであるが中等教育においては更に理解にもとづく自律的訓練及び理想態度の養成が大切である。ヘルバルトの用語を以て云へば管理以上に訓練にまで進むべきである。修身科、公民科等の諸學科によつて與へらるゝ知識を基礎にして優れた理想をもつ人格を作るべきである。この理想の陶冶は知識の附與にのみよつてあたへらるゝものではなく教授の方法乃至は教師の人格によるものである。學校がもし教科書の内容の教授にのみ止るならばかゝる理想態度は決して養成さるゝものではない。(完)

教科書挿畫に就て

津久井 名倉校 馬 上 加 策

兒童たちは新學期に、新しい教科書を求めると、急に兄さんらしい、姉さんらしい氣取りで非常に喜ぶ。

表紙を汚さぬ様にと、半紙や新聞紙等に包み大切にすると、中を汚さぬ様にとの心掛であらう、實際我々としても新しい書籍を求めた時は大變に氣分が異なるのであるから兒童にとつては之が當然であるのかも知れない。然し時が過ぎると兒童の教科書は表紙がまぐれたり汚れたりして取扱も不丁寧になつてくる、これまではまだよいが中

には教科書の挿畫を盛に彩色してゐるが、ある、事ここに至つては我々教師として看過する事は出来ぬ「こら何をする」とばかりに兒童を頭から叱かるのである、本が汚くなるではないか、そんな惡戯をしてはいけなとか、折角の兒童の骨折に對して何等賞讃の言葉を與へない、見付かつた兒童こそよい災難である。

然し一足ふみ入れて此の問題を解剖して見たい。

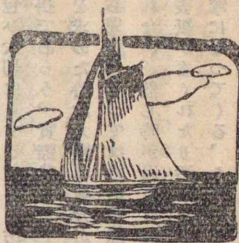
現在用ひられてゐる教科書はすべての點

に於て甚だ地味に出来てゐる感がある、大人ならいざ知らず、春の野に舞ひ遊ぶ蝶の如き彼等兒童が果して此の地味な教科書に満足して居られるであらうか。

人の本性として色のよいもの、香のよいものを選ぶのである、しかるが故に兒童は種々工夫をこらして教科書の挿畫の彩色も始めるのである、自己の心を満足せしめんが爲である。斯く考へたならば、かゝる兒童に對して叱るよりも、むしろ賞讃せねばならぬであらう。

兒童の本能を満足せしめんが爲に、教科書挿畫の彩色を望むものである。

勿論價格の問題もあることゝ切望は出来ぬが日頃氣付いた點を述べたまでである



再び獨逸より

獨逸ギーセン大學にて

村上 瑚磨 雄

一再ならず流されて來た、同胞の貴い血潮に培はれて、咲き匂ふ日本文化の花を、あの果てしも知れぬ廣野原の一角に眺めては、馴れぬ地方の若干不安な一人旅の間にも、底知れぬ誇を心の奥底深く秘めて通り過して來た、あの滿洲の天地が、丁度それから滿一ヶ年後の今日、再び硝煙彈雨の巷と化し去らうとは……まるで夢の様な事實である。今朝（十一月三十日）の新聞は、日本軍隊の鐵道附屬地へ向けて、撤退を報じてゐる、電文の簡略な爲に、詳しい事情を知ることが出来ないが、兎に角何等かの形に於て、日支兩國間に、新に協停の道が開けたのに相違ない、ゼネバや巴里に於ての、國際聯盟會議に於ての、随分込み入つたイキサツを、毎日の新聞で讀んでは、只一人でそれこれと氣を揉んで來たこの二ヶ月餘の事を考へて見ると、色々な教訓をその中に見出すことが出来る。

一體、一般の獨逸人は今次の滿洲事變をどう見てゐるかといふと、マアざつと一口に言つて見れば、「また始まつた極東の兄弟喧嘩！」位に考へてゐるのが間違のない處であらうか、何といつても、支那人の方が日本人よりも少くとも歐羅巴でははるかに顔がよく賣れてゐる事は事實である、歐洲人の目には、只見ただけで日本人と支那人との區別は一寸六ヶ敷ので……同じ黄色な顔に黒い髪、それに洋服を着て寫眞器を持つて歩いてゐられたのでは……ことに遙々と歐洲三界まで勉強に來てゐる程の支那人の顔には本國で見る平均處の顔とはちがつて相當の緊張もあり統一もつてゐることであるから……誰をでも先づ支那人として取扱つてしまふ、支那人ではないヨ」といふと、「ソレデヤ何國人だ」と反問し

ないで、すぐに「日本人か」と來るのはまづ珍らしい方である、それ程我輩日本人の存在が、平均處の歐洲人の頭にハッキリしてゐないのかと、癪にさはること夥しいが、さて何としても事實であるから仕方がない、尤もベルリンやパリの様な、日本人の澤山ゐる都會地では、多少趣を別にしてゐるけれども、何處までも、その國の文化の平均處を目標として、すべての事を見て行かうとしてゐる自分の場合には、姑く問題の外である。

しかし問題は只單に顔だけでは止まらぬ、世界の一等國としての誇は殘念ながらまだ平均處の獨逸人の承認を経ないまでに、我が日本の文化が低く見積られてゐるのは、悲しい事實である、一口にいって見ると、支那と日本とは單にその國民の顔が相互に區別し難いだけではなく、その各の有する文化の程度に於ても亦然りといふのが、恐らく平均處の……随つて、最大多數の……獨逸人の持つ常識であると斷言しても差支へないといふ自信は、滿一ヶ年後の滯獨中の經驗が、自分に與へて呉れたあまり香ばしからぬ教訓である、この教訓は、恐らく讀者の大部分の方々に自分にと同様に、多大の意外さや與へるに相違ないとは思ふが、しかし何處までもいつはらぬ事實であるのを如何せんである、同一種類の間が、同一文化程度に生活してゐる日支兩國間に起つた今次の紛争が「兄弟喧嘩」と見られるのは無理からぬ處であらうし、同じドングリの背比べとすれば、國土が廣汎な上に、由來も古い文化を持ち合はせた支那の言ひ分に、餘計に耳を傾けたがる、人間の出て來ることも、多少の道理もあらうといふもの、國際聯盟の支那ビイキを憤慨するのもよいとして、何よりも先づ、日本の姿と精神とを、如實に一般的な平均處の歐洲人の頭の中にハッキリと植ゑつける事が、最大の急務と自分は痛切に感じてゐる、勿論國際聯盟の執る態度には色々複雑な因子が働いてゐるであらうといふことは、自分もよく承知してゐる、それにまた、宣傳術にかけては日本人は到底支那人の敵たり得ない事情はないであらうか。

今次の滿洲事變が、在獨の支那人わけでも支那學生の血を湧かせた事は非常であつた、ベルリンの様な、兩國學生の多數住つてゐる處では、相互の感情……といつても勿論主に支那學生側の……がかなり緊張化したり、時には多少の衝突もあつたかに聞くのである、在ベルリンの支那人經營の支那料理店では、「日本人御斷り！」の札を店頭に掲げた、警

察の注意でその札を撤去した店へ、撤去したのが悪いといつて、多數の支那學生が殺到して、再び警察の厄介になつたといふ事實もある。それ位在獨支那人の神經が尖鋭化して來たのである。

久しく會はなかつた懇意な老林務官が、或日の夕の街頭で後から來て自分の肩に手をかけて、「變りはなかつたか、あまり久しく會はないので、支那學生に殴られてもしたのではないかと案じてゐた」といふ、「ギーセン戦線、更に異狀なし、當地の支那學生とは非常に親しい間柄だから」と答へると、「しかし充分用心した方がいゝよ」と、意味ありげに言ひ残して立ち去る、下宿に歸ると主婦が「あまりお歸りがおそいので、支那學生との間に何かあつたのではないかと心配してゐた處だ」といふ、「そんな心配はギーセンでは無用だ、お互にあんなに親しく相往來してゐた間柄だもの」と答へると、「しかし随分變な噂が立つてゐるから、御注意になつた方がよいと思ふ、勿論支那學生側から出た噂だけれども……」と、これも妙にからんだ物の言ひ方をして出て行く、何だか變なことを聞く日だなと思つてゐると、その翌日自分の部屋の机の上に、五六十頁ばかりの小冊子が残つてゐる、「日支關係記録」といふ標題で「在獨支那人祖國擁護同盟の爲に」として、著者たる二人の名(支那人)が署してある、内容は過去六十年間に於ける日支外交關係のイキサツを年代順に並べ立てたもので、「公平なる判斷を獨逸人に期待する」爲に、わざと著書等の主觀を離れて出來る限往復交渉の外交條約上の公文書覺書等の蒐集羅列に止めるといふ趣旨で、最後を、本年八月四日東京に於ける陸相の演説田中義一氏の大陸經營策建白書と松岡政友會調査委員の滿蒙政策とで結んである、これは在ギーセン支那學生の手によりて、當大學の先生と名のつく限の人々に配布されたのを、下宿の主婦がわざ／＼借りて來て自分に見せて呉れたのである、さては昨日の二人からの謎の様な注意は、この小冊子にからんだ話であつたのか、道理で、事變以來少しも顔を見せぬ支那學生の吳君や張君は、自分に内々で色々勿體をつけながら、こんな本を配つてゐたのか。

何といつてもしかし、日本の軍隊の威力には、流石の獨逸人も恐れをなしてゐる事だけは疑ふ様もない、しかもその強い軍隊は、獨逸式の軍事學を日本が採用したおかげであるから、結局獨逸の弟子であるといふので鼻を高くしてゐるのだ

からたまらない、しかし日本の軍隊が強いばかりにそれを勝手に頭の中でコネまはして、日本がその人口の驚くべき増殖の對策として滿洲を選んでは、理が非でも力づくで乗り取らうとする様に考へてゐる獨逸人は、まだ／＼多少なりとも東洋の事情に通じた積でゐる連中なのだから、全くやり切れない話である。

果せるかな、十一月二十三日の「フランクフルト通報」紙は、その第一面に大きな活字で、「日本の大仕掛の征服計劃」と題して、田中義一氏の建白書といふものの内容を、事細かに發表してゐる、「滿洲を第一歩として、手は次第に印度に向つて延ばさるべく、露國との衝突到底免れざるを期す」などと、いかにも全歐洲をまで脅威する様な書き振がしてある、尤もこの建白書といふものは、ロンドンの「モーニングポスト」ゼネバの「ゼネバ新聞」にもすでに掲げられたと斷つてある。

しかし何といつても現下の獨逸人にとつて、焦眉の急に促つてゐる問題は、滿洲事變よりも當面の苦しい經濟國難の打開策である、節約とか緊縮とかいふ様な文字では、とても間に合はぬ位まで、何から何まで切り詰められてゐる様である官吏教員の減俸も、第三次目が施行されて來ては、随分骨が折れるらしい、懇意にしてゐる某小學校長は「二十五パーセントの減俸と、所得税の増率とで、一ヶ月ザツト百二十マルク(約六十圓)の減收となるので、四人の子供を抱へてゐては、本當に参考書の一冊も買ふことは出來ない、しかし何も皆國の爲と思へば、出來る限の我慢は厭はぬつもりではあるけれど……」悲痛な叫びを上げてゐる始末、この冬を何とかして過す爲にと、市の社會局では、衣服家具寢具より食料品等品種を限らず新舊を問はず篤志家の寄贈を仰いでゐる、貧困兒童の爲には晝餐の寄附を募つてゐる、廢校減級減員併級などと、毎日の新聞は、そんな文字で滿されてゐる、最後まで保留されて居た整理のメスが、とう／＼教育界といふ安全地帯をまで見舞ふことになつたのだからたまらない、先生は急に倍加した筆記帳を山と積んだ前で、訂正の朱筆を執つてゐるし、生徒はあり合ふ小箱を臨時の腰掛として窮屈さうに机に向つてゐる、あはれな伯林市の小學校の實況を、どうかよく想像して見て下さい、教授用の掛圖標本などの、ヒドイことヒドイこと、私の知る限では、神奈川縣内の

小學校をどう捜してまはつたといつて、こんなひどい教具は恐らく何處にも發見することは出来ないであらう、これが大多數の平均處の小學校に於て見られる現在の状況であると推察しても、大した間違はあるまいと思ふ。

私はこの際、平均處、普通一般乃至大多數といふ様な言葉を、特に力を入れて發音させて御貰ひしたい、それには多少譯がある。

色々な關係からして、無理のない事には相違ないかも知れぬが、從來日本の外遊者の研究乃至調査のやり方には、少々自分には満足の出来ない處がある。英吉利といへばロンドン、佛蘭西といへば巴里、そして獨逸といへば柏林……乃至はそれに次ぐ位の大都會……といった風に、その國の文化の一番發達の頂點に達してゐる處だけを主に見て來て、ヤレ英國ではどうの、佛國ではかうの、獨逸はかく／＼などと報告されたのでは、眞のその國の實情を盡すといふ上に於て、頗る眞相に遠かる嫌がありはしまいか……光まばゆい東京の情景が、必ずしも日本そのもの、持つありのまゝの姿を盡くさないのと同じ様に、その國の平均的文化の標準線をとらへる爲には、寧ろ文化の尖端を幾分遠かつて、富士山なら六合目天地の境あたりに立つて眺める時に、却つて上も下も一緒に見通しがついて、眞の姿を目にし得はすまいか、世界大戰に於けるおどろくべき獨逸の偉大なる底力は、ネオンサイン、晝を欺く大都會の中に於てよりかも知れぬ一歩を退いて、大多數の平均處の獨逸人の生きてゐる働いてゐる地域の中に於て、却つて本當に見出されるのではないか、更にまたその國民の精神が、その國の歴史と傳統とを外にしては到底解釋が出来ないものとするならば、柏林を含む北獨逸地方の或る意味に於てゲルマン民族の殖民地であつた邊よりかも知れぬ多年彼等の文化を養ひはぐくんで來た大動脈ともいふべき、ライン河一帯の地域こそは、眞に獨逸精神の由來を尋ねんとするものに取つて屈竟の場所ではないか、かうした二つの考が自分を先づ當ギンセン市へと導いて來たのである、そしてこの考は、大體に於て失敗でなかつたことを、今日でも尙心算かに喜んでゐるのである、獨逸の教育は單に柏林あたりの一二の新しい學校や名高い學校に就いてではなく、平均處の多數の學校に於て初めて、その眞の偉をつかむ事が出来る、人よ、一將の赫々たる偉功に眼眩みて、その下に働く幾多無名の士卒

の努力を忘るゝ勿れである、文明とは或意味に於ては、小さき者、弱きもの、微細なるもの、無名なるものの次第に認められ行く過程ではないか。

日本の眞の姿を世界の前に明かにすることの必要となると同時に、世界列強の眞の偉を如實に把握することもまた急務であると思ふ、試に思へ、獨逸でもまだ木製の靴を履いてゐる人間がある、石油ランプが今尙ほ電燈と相並んで用ひられてゐるといふことを聞いても、恐らく信ずる人はないかも知れぬが、しかしそれは明かな眼前の事實である、文明國といつても、平均的文化の標準線は、案外に低い處がある、小學校では、一年生から八年生まで、今尙盛に石盤が使用されてゐるのも、一寸おどかされる處ではあるまいか、「級決教可」式の問答も毎時の教授に盛に使用されてゐる、それはまだしもとして、教授中に生徒を殴ぐること直立を命ずることこれも決して珍しい事ではない、そこで氣の早い連中は「小學教育は今や世界で日本が第一に進歩してゐる」など大ビラに報告する様なことになる、するとまた別な連中が歸つて來て……伯林で二夏を過す間に蚊といふ虫のあることを忘れてしまつたといふ仲間かも知れぬが……「日本の小學教育は何れにせよ今や建直しの時期に直面してゐる」などゝやられると、聴く耳が同じでは一寸出處進退に迷つてしまふ外はないではないか。

何にしるマルクス、エンゲルスの「共產黨宣言」が、大學の演習討議の教科書として公然と使はれてゐる國である。一般文化の標準線は案外低いといつても低さにも程度がある、どんなきたないナリをしたヨボ／＼の爺さん婆さんをつかまへて見ても、自分の名前の書けないといふ様なものにはまだ出會はした事がない、先に立つてゐるものを押しのけて、切符を買ふ様なことは、どんな茶目公でも決してしない、おそろしい規律の立つた國柄である、硝子窓と金具類に錆や曇は決して見出せない、清潔といふことがその魂に刻み込まれてゐるらしい、ヤレデイルタイだの、シュプランゲルだの、二口目にはフツサールの現象象がどうのと、分つてゐるのか分つてゐないのかさへが分らない様な口調で、やかましい議論をこそ弄ばないが、キチン／＼と自分の仕事を區切りよく完整して行く點に於ては、獨逸の小學校の先生は、たしかに敬

服すべき或物を持つてゐる様である、議論は随分よく戦はず様ではあるが影にまはつて徒黨を組んでコッソリ他人を陥れる様な卑怯未練な態度などは、決してないらしいのも羨しい事の一つである。

どうか自分の念とする平均線的の眺め方が、多少なりとも日本の教育の伸展の上に役立つ様にと祈りながら、忙がしい毎日を送つてゐる、他面日本文化の真相の一端をでも紹介しようと努めてゐる自分の考に、一臂の力を吝まれない讀者各位の御盡力によつて、日本の小中學教育の實際を、此國の人に示すに足る様な材料……行事の寫眞、圖畫、手工などの成績品其他何にても……の御惠送が願はるゝならば此上もない幸である、開き封にして左の通に表記して下さると低額の郵税にて届きます

Herrn Prof komao Murakami
in Giessen, Garthustr. 18f
Deutschland.
(ケンリヤ藤田獨逸行)

二度のクリスマス前三週間の後に迎へるのかと思ふと、流石に感慨無限なるものがある、よき年を御迎へになる様にと一萬三千軒を隔てゝ遙かにこれを祈りながら左様なら十一月三十日夕。

(村上氏の御注文に應ぜらるゝ兒童の作品送致方は當教育會に於いて取扱ふべければ、篤志の方は便宜本會事務所にお届けありたし)



短 歌

都筑・山内第一校

石原日の出

松尾君を送る

山峽の宮ヶ瀬校に君送る
初冬の空はいやに寒きも
四百の學び子たちと霜だけの
村境まで君を送りぬ
ひたすらに別れの涙見せまじと
君は冬空に眼をむけつ
教へ子といよ、別れの悲しくて
言葉少なにゆきませし君
轉任の君を送りてかへる道
何かさびしく青空を見る
高ぶらず穏やかな君一度も
不平不満を言はざりし君

(六・一二・八)

世相諷刺詩

一 燈

- 一、柿が實つた
よく熟れた
蟹の資本と
努力とで。
- 二、蟹は歡呼の
鉗を上げた
蟹は瑞喜の
眼を張つた。
- 三、此の成果
此の權益
そを害なふ
猿に向つて
- 四、蟹の眼は
怒りに燃えた
蟹の鉗は
かつと立つた。

新年の句

神奈川・白幡

貞廣一燈

舞めくや星の代々木の初詣

朝拜や長肥瘦短一堂に

新春や有らゆる人の幸祈る

霽を焼く初日や灘の眞只中

風昇る筑紫平らの初日かな

初結やくつきり白き妻の襟

双六や後より越して一上り

貧三感

松の内せめて明るく願ひけり

追羽子や我子ばかりの入れられず

春着なき擲擲をなだめつ咽せぶ母

水鳥五句

水鳥の搔けば泥立つ浸り葦

群に遠く離れて二つ浮寝鳥
水鳥の入江は星に霽れけり
浮寝鳥潮引くままに引かれけり
水鳥や洲に圓ろく石の如と

新春を詠ふ

愛甲・南毛利校

杉山杜子美

元日の夕日にぎはし濱の梗に
正月日和ゆづり木に風見えて來し
萬歳が野に出て石に憩ひけり
さゝ鳴きや山の古井の水あさく
おのがじし兒は木にのぼり野の霞

近詠

豊岡校

岩田紅一

國威宣揚祈願式(鶴見神社)

額けば神の聲あり曉の霜

勅題 謹吟

初鶴や天の戸明くる聲の張り

壬申に因みて

元朝の兒等の希望よ日吉丸

浦島・出臍會句集

同人報

椽側にカナリヤを聞く小春かな

小春日を膝の小猫と暮しけり

小春日や日向ぼつこの眼はとろゝ

小春日や庭に小さき旋風

水鳥の菜屑奪ひて下る河

小春日や庭一ぱいの靱筵

岸へ寄す波にゆら／＼浮寝鳥

水際をぼちや／＼あるく家鴨かな

ひよつ子を小春の庭に放ちけり

小春日やばゝは椽にてぼろつどり

直峯 桂川 呑海 彌生 羊村 吟兒 龍川 福子 石舟 浦丘

俳句會

季題「梅」

選者一燈宗匠

一、五句吐
二、メ切

一月二十五日

丈一 鐵箒 春江 利子 秀青 月城 月舟 喜樂 園女 鐵柵



本誌發展と 講讀者勸誘

今茲昭和七年の新春を迎へた

談論 機關

本誌は、劃期的に新生命と握手すべく燃え立つ希望を以つて、新天地にふさはしき新装に輝きある新文化を展望すべく潑瀾たる清新の氣の中に生れ出ようとしてゐます、まづ第一に談論機關としての完全なる本誌の使命を果たすことであります。

明治、大正と過ぎて、昭和もはや七年を迎へた今日、吾人教育界としても、教育は勿論、思想に於いてもそこに大いなる開發があり、推移がある筈です、少なくとも昭和の吾人は「自覺ある天民」であるに相違ありません。國家的に世界的に、人類的に民族的に。

されば男女を論せず、老若を問はず、何人と雖も必ず一想一識はあるべき筈であります、さうした相互の思想が熾に本誌上に發表されることによりて、他を啓發し、己を擴充して、こゝにはじめて談論機關として意義あらしめることと考へます。

郷土中 心講座

吾人は現時、郷土教育の聲を餘りに屢々聞かさることであり、吾々はたしかに理想に追蹤するに忠實すぎた、——現實に盲に——理想を紙の中にのみあせり求めた——書本主義の教育へと——空想、迷想、陷穽。

そこにペスタロツチのルネッサンの叫、郷土の宗教、郷土の藝術、郷土の經濟、郷土の政治、郷土の商業、それらが徹底的に兒童の頭腦に理解されてゐるであらうかと。

吾等教育實際家は、高遠な學說、學理、原則などいふことより、先づその郷土に於けるそれらの運營の實際の中にそれらを發見せねばならぬことは、今更呶々を要しません。

そこで郷土内のこれ等につきそれらの専門家の説話に尋ねて活きたる教材資料を把捉することにしたものであります。

誌上 俳句會

お互は忙しい事を歓迎する、からとて弓弦を斷たない程のゆるみはあつて欲しい者である酒を飲むには女がいる、煙草を喫へば頭がやめる、稿の財布をからにしたくも柄でない、その補ひとなるなら俳句趣味は、純で、平易で、無慾で、その超越した處に、宗教あり、哲理あり、藝術あつて、宇宙自然の妙理に徹すれば、萬象一如、俳詩こそ多忙で、無智で、無邪氣な吾々貧乏人には、うつてつけの、それがまた修養道であり、純真な娛樂でもある、これ句會を設けたそもゝの理由である。一燈宗匠は、斯界の長老、帝大出の法學士、頗る文學に興味造詣が深い、一寸同氏に失禮して素肌で紹介してあく、たくさんに駄句、名句をあよせ下さい。

質疑 應答欄

お役所の事務でも、互助會、教育會に關係する事でも、分らないことは質問をよせて下さい、時には人事に關すること、自個の出處進退に迷ひ、しかも役所むきに相談しにくいことでも、内密に談合に應じてみたい、事の次第によつて自己を犠牲にする覺悟だけはも

ちあわせてゐる。學術研究に關することは、それらの専門家の意見をきいてお答へする勞を厭はない。回答は誌上、事柄によつては私信とする。

人 材 紹 介

本縣では縣下一般の教育界をはじめ、各社會に亘りて知名な人物を澤山にもつ、それらの人々の卓見抱負なり、人柄なりを、誌上だけでも承知してゐることは、吾らの強味であり好指鍼でもある、固より多士濟々たる教育界に於いては、各自の獨自性の尊嚴を認識して自ら進んで強く本誌上に發揮せられよ、而して各自の存在を力強く確認せしめられよ、吾人はこれを決して少しも自己宣傳などとは思はないのである。

讀 者 勧 誘

本誌は現に講演者數五百餘であるが發行部數千となれば代價も安くなる筈、始めから毫も利潤を目的とせず投費する限りは、うんと講演者を多くすることは意義深いことである。或る府縣教育會の如きは新聞型旬刊として、時事を論し、報道の迅速をもかねた進んだ處もある。

吾等の大神奈川縣、須らくその規模を大いにし、更始一新の時勢に順應すべくたたなければならぬ。冀くは現本誌愛讀者諸君は言ふ迄もなく、常に縣教育に期待と同情とを寄せらるゝ各位は、互に競つて愛讀者の勧誘に一臂の勞を與へられんことを切望いたします。

國を愛する者は縣を愛す。縣を愛するものにして能くその郷土を愛するを知る。



郷土の微地形學的觀察に就て

川崎高等 中山 貞 治

先般、本縣主催地理科主任訓導協議會が私の學校を會場として開催されました折、私共の學校の地理科研究部に對して一時間の實地授業を致せと御下命にあづかりました事は、研究部の非常に光榮と致した所で御座います。扱て其の節、私の擇びました教材は、元來私の學校の主眼である郷土教育の一切斷面で、郷土地理教育を含む郷土の觀察であつたのであります。實は卒業を控へましたその月頃になつて、統制を意味しての郷土觀察であつたのであります。

學校の實地授業の態度が郷土教育を含むといふ條件を有しておりまして、特に繰上げて取扱ふて見た様な次第であります。洵に見苦しかつた授業であつたであらうとは思ひますが、多數の方々から御參觀を賜りましたので、うれしく存じております。

扱て御參觀下さいました方は御承知の様に、私は川崎の微地形學的觀察を兒童に致させながら、川崎市そのものの文化波浪に説き及ぼさうとしたので御座います。

御承知の様に、地理教科の對象は地表に於ての自然空間と、其の空間の上に育成された文化空間との依存關係、又は各々の空間の有様、續いては各空間に於ける關聯の姿を眺めながら、國民陶冶への指導を目的としておりますので單なる物理的存在をのみ認める様な概念的なものではないのであります。兎に角科學的といふ言葉によつて凡てのものを、あまりに數學的に分析しすぎた反動から、最近に於ては、凡ての對象があるが儘の存在ではなく、生命の躍動した意味ある對象として傾向づけられて參つたのであります。それにはどうしても自己を包む環境といふ地域の調和

材が最も自己に對して價值ある精神材で體驗そのものであると申されておるのであります。

それ故に、在來科學といふ美名にとらはれて、ともすると無味乾燥に解剖されて、取扱はれてゐた對象を、再び郷土といふ範圍に照合し、之を統一あり生命ある有機的な存在物として眺めやうとする、所謂郷土教育の姿となつて現はれたかの様に私には思はれます。

其の意味から川崎といふ郷土を取扱ひました私は、つとめて人間味のある出来るだけ立體的な教授を致さんものと考へ『體驗の手段としては郷土觀察において他には良法を發見しない』と云はれた獨逸のスプランガー教授の言葉を信じながら臨んでおつたのであります。特に地理科學の持つ目的も、窮極する所郷土の知情意的全一體を了解せんとするもので、郷土教育の本質と大差のないもの、寧ろ相似形とでも云ふのはあるまいかと考へております。斯様に考へて参りますと、郷土教育に對して地理教育なるものが甚だ重要な位置を占有してゐる事に氣付くのであります。即ち郷土文化は郷土の自然といふ畑の上に培はれた花で、郷土の一面面を作つてはいるものの、唯單なる存在物では

ない。所謂自然景と相擁して地理學的に闡明されねばならぬ特色ある文化なのであります。そこで、私は郷土教育又は郷土地理教育なるものが其の地域の自然景の上に堅い堅い基礎を置いて出發しなければならぬ事を信じております。何故かといふに、歴史的に發達して來た現在の文化空間なるものが、一つとして自然空間を背景として誘引されてゐないものはないからであります。而し低學年の郷土教育は其の心理的立場から或は直接的な活動的文化材を先にすべきものではなからうかと考へております。

兎に角、自然景は其の地域に對する解決的條件を附與する主題でありますから、高學年の系統的な郷土地理教育に於てはゆるがせならぬ問題でありますので私は題目に述べておきました。微地形の觀察といふ事を申したいのであります。地形と云ひますと、日本アルプスとか或は關東平野とか申す様な大地形を思ひ出し、それ等の地人關係を想定致します關係から、ともすると私共が住んでゐる川崎の様な無味地形(立體的に)にはどうもうまくあてはまつて來ないのであります。所が最近に郷土とか、地域とかの研究が勃興致しまして學界にも盛んに微地形の文献が續出して

参つたのであります。微地形とは文字が示す様に一米とか又は五米とかの様な僅少な標高差を有する地形、又は川巾三米とも申す様な河川の有様等を稱へますので在來の大地形に對しての言葉であります。

考へて見ますと、この微地形なるものも地域に對して非常に重要な文化條件を附與して呉れておるのであります。

粗雑で荒削りな大地形が與へて來れる様な、輪廓の大きい一般的に近い様な文化ではなくて、微に入り細に入つての個性ある所謂特殊な文化を培つて呉れるのであります。

例へば先日私の授業に於ける觀察材でありました川崎と洪水(最高點七・五米、川崎驛附近二・五米)。多摩川と堤防、又は文化島としての聚落の位置、耕作景と開拓景、二ヶ飲用水と飲料水、工場地と交通等は微地形の研究を待つて始めて了解されるので、僅か一米たらずの標高差が川崎住民の生活の上に、古來幾多の影響を與へておつたか、又現在與へつゝあるかを視へるのであります。この問題は獨り川崎の問題ではなくあらゆる地域觀察の上に題材とならなければならぬのであります。例へば相模野に於ける泉と聚落、早起風と樹相、湘南地方に於ける砂丘列と耕作景、

又は防風林や家屋の構造など、又は僅かな小流の蛇曲、丘陵の傾斜面、等等、今更私の云云する必要はない事と思ひます。

兎に角私は以上郷土觀察上に於ける微地形學的研究の必要を述べ一面先般の授業の立場を明らかにしたのであります。(本論は情報欄の地理研究協議會記事と照合して複讀ありたし)

郷土中心經濟講座

本號掲載は講師の都合に依り休
みます

○正 誤

前號經濟講話記事五〇頁一〇行目「呼値は一
斤」は十斤の誤。
口繪「昌山遺跡」寫真寄贈者「白井氏」は、「重
忠會」の誤。



如何に兒童の文を觀るべきか (其の二)

愛甲、煤ヶ谷 杉 山 熙

(二)綴方に於ては常に兒童の生活に注意し、その指導に努めなければならぬ。其の文例

○私のそそう

六女 トミ

私は或日弟とふざけつことをしてゐた。私はお母さんの疊付きの下駄をはいてゐた。家のまはりぐるぐるまはつてふざけつことをしてゐた。植木場の所に大きな石がある。その石のつて、下駄を割つてしまつた。

さあなんて言つたらよいだらう。お母さんに言はうか、かくしておこうか、私はそつと兎箱の裏へかくしておいた。私はそれが氣になつて夜もろくろく眠りませんでした。いつ見つかから、早く見つかつてしまひたい。

すると明日お母さんが下駄をしまつて、しまふんだが下駄をどこへしたんだらうと言はれた。私は八重子でもどこかへしたんだらうと言つた。下駄を割つたのはそそうであつて仕方がないが、こゝろいふ嘘を言つて妹のせいにするのは甚だよくありません。ハ

重子は「何でもおれのせいにしんだあな、おれが知つてゐるか」と言つておこつてしまつた。お母さんは亦どこからか出てこようとおつしやいました。お母さんがいゝかん時分には、あの下駄の事を言ひ出されますが、まだ私だといふことが分りません。もうかくしてから二十日位たつてゐます。私はまだお母さんに話しません。早くお母さんに話して、あやまつてしまひなさい。さうすれば心持もせいゝとします。

これも生活を偽りなく發表したものである。このそそうに對する、この子の態度は決してよくない。けれ共これをあからさまに書くことは綴方として十分の生命をもつものである。この子は既に題に示す如く、このことが自分の過失であることを知つてゐる。併しこれをお母さんに言ふことが出来ない。母の叱責を恐れてゐるわけである。しかしそれをかくしておいても仕方はない。下駄を割つたことは過

きいゝ泣き出したといはれます。

それから二、三年たつた時、羽織のひもをおつたて結びに結んだら、こゝろいふ風に結ぶのだとむけえのおばあさんが一べんおしへられただけであつたが、すぐ蝶々結びを覚えてしまつたさうです。(仲々おぼえがよいね)

又五六歳の時はむけえのおばあさんが來られると、「鼻たらしおばあなんしい來たあけいろけいろ」などと言つた事を、お母さんはよくこんな事を話されます。私はこんな事を言はないで大事にもてなしてやればよかつたと後悔してゐます。又本家のひねおばあさんに、よく可愛がられ、よく「チイヤこんべとうくんから來うよこうよ」と言はれて貰ひに行つたことも覚えてゐる。こんなことをやり通して、やつと學校に上りました。弟とつくんでけんかばかりしてゐます。又お母ちゃんに叱かれてくやしい時は、夜は戸をがたゝしめたり、お母ちゃんが用を言ひつけられてもいやな用時は、そら歌をうたつて聞えないふりをしてゐます。

(それはいけません)

私はせいは少し大きい方ですが、やせていて始終ちの者にかまはれてゐます。又私の性質は人が大勢ゐる所では何にも言へずぐづゝしてゐます。(お前のぐずゝはぜひなほしたい。それでもつとせいゝした子供にしたいと思ひます)夜などは少しは勇氣のある方です。便所へも行くのにおつかないといふ人があるが、少しもこわくはありません。それで剛情張りであるのです(たしかにさうだと思ひます、先生も)この間の事、お母さんが隣へ使に行つてこいと言はれたが、剛情を張つて、眞黒やみを一人で歩いて行つた。さうして庭にバケツのあるのも知らず歩いて行つた

失であつて悪いことではない。それよりもこれをかくしておいたり妹のせいにしたりすることがよくない。夜もよく眠れないといふのもその爲である。早くあやまつてお母さんに言つてしまひなさい。こんな風に指導したのである。これも兒童にありのまゝに表現する態度を充分に養つておかなければ、兒童が眞實の表現をしないから、兒童の生活の眞相を知ることが出来ないため、生活指導などは出来ないことになる。

尙この子はこの文をかへしてから、二三日たつて、この事を母に告白したら、お母さんも、そそうしてしまつたことは、仕方がないから、正直に言はなければいけないとやさしくさとされたさうである。私もこれをきいて一層うれしく思つた。

(括弧内は私の批評である)

○私

六女 千恵子

私は赤ん坊の時は泣虫で夜になるときつと急にきいゝ泣き出して、容易にはだまらなかつたといふ。(さうだらう、お前の氣性は一寸はげしさうだ)おつかちゃんをよくこんな事を話されるので自分はこんなであつたらうかと思ふ。其の頃お母さんの妹の人が私位であつたので、子守をしてもらい、お母ちゃんを見ると又

ので、けがをしてしまった。(ばちがあたつたのです) それでもかまはず歩いて行つたので、今度は土手に突き當つたので、用を足さずにおこつて歸つて来てしまいました。(それが剛情と言ふんです、お母ちゃんの言はれる通り素直に言ふことをきかなければいけない。どうもすぐにひねくれてこまります。つとめてなほしなさい)

又算術の時先生が全科や参考書は見てはいけないと言はれるが、いや今度から見まいと思つてやつてみれば、出来ないのがまんなしなですぐ見てしまいました。私はせめてぶし／＼するの品物を粗末にする事をなほさうと思つてゐるが、仲々實行が出来ない。(品物を粗末にすることは別に書いてなかつたが、少し書いた方がいゝ)

自己に對する觀察を叙べたものである。相當詳細によく書けてゐる。この子が自分で自ら剛情なこと、ぶし／＼することを知つて居り、そして最後にかうした性質をなほしたいと願つてゐる。私も平生この子の妙なへんちきりんな、ひねくれるやうな嫌氣のする性質には困つてゐた。もつとせい／＼と、あつさりと、素直な子供にしたいと思つてゐたのである。括弧が批評であると共に指導である。どうかこの變な氣性をなほして出来るだけ快活な子供にしたいものである。

(三)取材のまことに面白い文例

材料を得るものである。次の文例も丁度この文例に似よつたものである。

尙本文の作者が冒頭にこの事實をまとめて、優勝劣敗の原理をつかんでゐる點も面白く、最後の「僕はあの時こそ面白かつたことはないと思つた。と同時に猫の目の早いのに驚いた」といふ實感には實に子供らしいものである。すいつちよの食はれたことをあはれに思ふなどといふ、にせ慈悲心などがあらはれてゐない所そこにも子供としての眞實味があると言へやう。

○くもの巢と蛙

六男 輝夫

ふと上を見るとくもの巢に蛙がひつかかつてゐる。蛙は苦しうに足を伸ばしたり、ちぢめたりして、もがいてゐる。どこからともなくくもが出て来て、蛙を糸でまいてしまつた。蛙は向も逃げやうとあせつてゐる。僕は縁側へかばんを下ろして、又くもの巢の方を見ると、もうくもはどこかへ行つてしまつた。蛙はじつとしてゐる。僕は死んだのだらうかと思つて、そつと地に下ろしてやつた。蛙はしばらくじつとしてゐたが、やがてびよ／＼飛んで行つてしまつた。蛙は僕をだましたのだと思ふと、急にくやしなつたので蛙の行つた方へ行つてみたが蛙はもういなくなつた。僕が又くもの巢の方を見ると、蛙のひつかかつた所だけが、こはれて、あとはこはれてゐなかつた。あたりはうす暗く、どこからか元氣な馬方の歌がきこえてくる。

これも面白い子供の生活の一端であり、單なる事實だけで

○猫とすいつちよ

六男 四郎

何でも強い者が勝つて弱い者が負けるのはわかかつてゐる。この間の夜の事であつた。僕は本は讀んでゐたが、つまらなくなつたので「つまらないなあ」と獨り言を言つてゐた時、丁度向ふから、猫がかけて來た。何だからかけてくるだらうと思つてゐると猫は座敷にゐた一匹のすいつちよを見つけた。

僕は何をしたらうと思つて、よく見てゐると、猫はすいつちよのそばに行くと、今にも飛びつきさうな目をして、すいつちよを見つめてゐた。

僕ははい／＼面白くなつてきたと思つて、よく見てゐると、猫はすいつちよに飛びついてきた。

すいつちよはびよ／＼と向ふに飛んだ。猫は又向ふに行つて、すいつちよに飛びついた。すいつちよは又向ふににげた。こんなことを幾度もくりかへしてゐると、猫はじれつたくなつたのか、いきなりすいつちよの頭からかみついた。いくらすいつちよが早くても不意に飛びつかれたので頭からかみつかれた。猫はしめたと思つたか、又も二度目をはげしくかんだ。こゝなつたらすいつちよも逃げれない。遂に猫のために食はれてしまつた。

僕はあの時こそ面白かつた事はないと思つた。と同時に猫の目の早いのに驚いた。

その場面の觀察が實に詳細であり、面白いことに目をつけたものであり行文亦中々に妙を得てゐる。綴方に於て題がなくて困るといふことはよく言はれることであるが、常に注意して何かを表現することに力めてゐると、案外面白い

なく、作者の實感は文中どこにも躍動してゐる點、こゝに生活といひ得べきものがあるのである。

○運の悪い日

六女 サク

うら／＼かな初春の日、よもぎつみに行きました。段々川べりに近づくと何となく心がゆるんでねむくなつてきた。

土手に青々と見えるよもぎ。その間を早速で逃げて行くとかげ。思はずはつと思つて、立ち止つた。

何だかうす氣味悪くなつてきた。臆病者の私は何か恐ろしい者に追はれてゐるやうに小走りに、逃げ出した。

其の次行つた所も、青々としたよもぎがもりかへるやうに澤山であつた。一足進んで手を出すと、又してもさつきのとかげがある。私はさつきより何ひどく驚いて、思はず二三歩退いた。胸は烈しく波うつて、手も足もがた／＼ふるへて、しばらく何の考もなくたゞずんでゐた。

やつと思ひなほした時はとかげの姿はもう見えませんでした。三度目に行つた所は前よりもずつと澤山でゐました。ざる一杯とつて、歸らうとしましたが、慾深な私は最後の一本を取らうと思つて手を出すと、私の手の上をちよ／＼と走つて行つたものがあります、見るとそれは前に二度も見たとかげだつたのです。

私は急いで川の水で手を洗ふと後も見ずにころげる様に橋の上迄かけて來ました。私は歩きながら今日はなんて運の悪い日であらう。一番きらいなとかげに三度迄あつて、つく／＼思ひました。これもまことにいゝ着想である。子供の生活にも随分色々なことがあるものである。こうしたことを綴方に於て表現

してこそ思想の練磨も出来、自己の創造もなし得らるゝのである。

題のつけ方も巧妙適切である。
(四短いけれ共生命ある文例)

○竹の子

六男 一晴

隣の竹やぶから竹が根を張つてうちの桑原に竹の子が芽を出した。僕はその上にくずもをのせてかくしておいた。そして毎日學校から歸つては、くずもを取つて見てゐた。時々しるしをしておいた。その竹の子はずん／＼大きくなつて、くずもなどはどかしてしまつた。僕はそれでも無理にのせておいた。學校から歸つてみると、臺所に竹の子がころがつてゐる。僕はびつくりしてきいてみると、隣でもらつて掘つたのだと言はれた。僕がそこへ行つてみると、そこには新しい土があるだけであつた。

六年生として決して内容豊富など言はるべき文ではない。簡單なものである。しかしこの文には竹の子に對する作者の愛着とその竹の子を中心とした作者の子供らしい生活がはつきりとあらはれてゐる。

この位の文は三、四年生でも作れるものである。こんなに舉げる程のものでもないが、綴方はどこ迄も作者の實感、眞實味といふことを中心にして文を觀なければならぬから、單に量の多少によつてこれは何年位とかいふ具合に一概に評價すべきではない。この意味に於て本文は短いが生命ある文としてみとめたいと思ふ。

○乞食

六女 瀧江

暮れ近い頃でした。一人の男の乞食が、私の家へ来て、外で何だか分らないやうなことを言つては、鈴をならしてゐる。私は米をもつて外へ出た。一目見ると乞食はまだ働けさうな丈夫な身體をしてゐる。毎日あの丈夫な身體で働いてゐれば、そんなことはないのに、毎日遊んでばかりゐるからだと思ふと、米一粒もくれるのがいやになつた。けれ共乞食などしてゐるのは、随分つらいことであらうと思ふと、急に何かくれてやらうといふ氣になつて、米をやらうとすると、汚い袋を出した。私がそれに入れてやると、私にいく度もいく度もおじきをした。そして又私の家を出て行つてしまつた。

私がその後姿を見ると、ぼろ／＼にきれた着物を着てゐる。私はくれてやる時の心とちがつて、ずい分かはいさうなものだと思つた。これも量は多くない。けれ共作者の實感は相當によく表現されてゐる。

乞食に對しての二つの心。一つは勤勞すれば乞食などすることは無いといふ人生に對する一つの觀方であり、一つはぼろ／＼にきれた身なりのきたない乞食に對しての同情心の發露であつて、或日の暮方の生活經驗を通して、その二つの心が表現された所に、この文の内容的生命がある。量の多いことのみがいゝとは決して言はれない。短くても、實感に充ち、眞實味に富んでゐるならばそれだけで、既に生命を持つ文と言ひ得るのである。いりもしないことを徒らに長々と書くにも及ばないことである。(つゞく)



複式による三四年と語る

綴り方に對する一愚見

高座・有馬 東 哲 彦

この前の時間に書いた綴り方を、今日は先生に見せる日です。

うんなかなか字をきれいに書いた人もゐるが、あまりきれいでない人もゐるね。先生は目があんまり丈夫でないから、字のきたないのは降参してしまふね。

先生に読んで下さいといつて言ふのかい。
さうよね、読んでもいいんですが、また叮嚀に見て置いて今度三年と四年と同じ時間に綴り方がある日に、みんなの前で、とても上手に、とてもうまいく読んでみることにして、今日は三四年兩方とも、手が疲れて居るだらうから、ねんねさせて上げることしよう。

君、君、先生體操ですかッ、なんて言ふんぢやないよ。男生は元氣があつて體操ばかりやりたがつてゐるから、ご

らん女生があんな顔をして君をにらんでゐるぞ。
今日は北風も吹いてゐるしするから、先生が一つ、綴り方について、どうしたらみんなが上手に作れるやうになれるかお話をしよう。

此の級の中には、綴り方の上手な人と、あんまり上手でない人とがゐるんだが、何故だらうね、それを先づ考へて見よう。

で、先生の考へる所によると「あんまり上手でない人」は、ふだんの心がけが少しばかり足りないんだと思ふね。

綴り方の時間になつて「ヤッ綴り方だぞ、何を書こうかな、なんにもありやしない」なんて、やつてゐるんでは、まあ、丙より上は戴けないだらうな。

だから、ふだんから、どんなものでも氣をつけて見ると

と、それが一つ大切だね。

今朝みんな朝飯を戴いたらう。その時お膳の上の御馳走ばかり、にらみつけないで、其の周りの有様を見て置かなくちやいけないね。御飯を戴き乍らのお父様のお話(畑の話、田の話、稲の話)お母様の様子、妹や弟の御飯を食べる有様、ゐりの火、猫、鶏、庭の霜、花壇の菊、そんなことまで綴り方に書くつもりで、にらみつけて置かなくてはだめだね。家で遊んでゐる時でも、學校に來ながらでも、お客に行つた時でも、汽車に乗つた時でも、面白いことや珍らしいことがあつたら、先生にそのことをお話するつもりで、綴り方を作つて出すやうにするんだね。

綴り方は、みんなが口でお話することを、紙に書いて、先生とお話することなんだからね。で、誰だつて吃り吃りお話したりとりとめもないことを話したりすると、聞いてゐて倦きてしまふだらうだから、綴り方だつて面白くすらくく書かなくてはつまらないね。

それから、他の人の作つたものを澤山讀むといふことと、澤山聴くといふことが大切なことの二番目だ。

三年生は三年生の綴り方を、四年生は四年生の程度の綴

り方を讀んだり、聴いたりすることだ。綴り方の雑誌を讀むのもいいし、友達と取りかへつこして讀むのもいい。それから四年生にも一寸むづかしいかも知れないが、フランスの小説家のエクトル・マローといふ人が書いて、日本の小説家の菊地幽芳先生が譯した「家なき兒」といふ本を是非讀むか、或は讀んで貰ふかしてごらん、此の本はみんなが綴り方を書く上に、どんなに助けになるか知れない。

ところが此處で大切なことは、ぼんやりと面白い／＼で讀んでしまつたり、聴いてしまつたりしてはいけない。自分が作る時の助けになるものを見つけないといけない。で、ふだんから氣をつけてさへ居れば、みんなの周りには、上手な綴り方を書くことの出来る種子が、ごろごろところがたつてゐる筈だ。それを見つけた人が甲の人で、見つけられなかつた人が丙の人だ。

ところが、ふだんから氣をつけて居ても、書くことを忘れてしまふことがあるだらう。だから其處で、大切なことの三番目は、綴り方學習帳の必要なことだ。この帳面には書く事項と、題と、それを見つけた月日とを、大あらましに書き込んで置くのだ。この學習帳は丁度、牛の胃袋の様

E 自分の考へてゐたことがみんな書けたか。

F 大切なことを抜けてゐないか。

G 自分で讀んで見て、胸がすーつとすく程氣持ちよく書けてゐるか

を調べて、先生の所へ持つて來るやうにすれば、いつでも甲上がもらへるんですよ。それから一番終りに、一番大切なことを一つお話して置こう。

それは嘘らしいことを書いたり、その中に自分の心持がは入つてゐなかつたりしてゐてはいけないと言ふことだ。

厭や厭や乍ら書いたり、ふざけふざけ書いたりすると、よくこんな綴り方を書いてしまふ。眞面目に書いてゐるか居ないかは、先生が一寸讀めば直ぐ解る。

少しつきり書けないから恥かしいなんか言ふことはないその人が眞面目に考へて、眞面目に書いてゐるなら、だんだんと長い上手な綴り方が書けるやうになつて來る。

では次に、竹内公男さんの童話を讀んで終ることにしよう。公男さんに讀んで戴きませうか、それとも先生が讀みませうか。

公男さんに讀んで、戴きたい？

では、さうませう。公男さん此處へ來て讀んでごらん。

に、そこらにころがつてゐる綴り方になりさうなものを、どしどしとつめこんで置くのだ。そして、それを後になつて、ゆつくりと引き出して、原稿用紙に書き初めるのだ。悪いものは捨てしまわなとお腹が痛くなるから、そんなのは原稿用紙に書かないで、捨てしまわなくてはいけませんよ。

で、原稿紙に書き初めたら、平假名だらうと、片假名だらうと、おかまいなしに、人とお話なんかしないで、ぐんぐんと、まるで自動車が行くやうに、鉛筆を二三本用意して置いて、無我夢中で書き上げてしまふことが大切なことの其の四だ。で此處で、あんまり「鉛筆自動車」を速く走らせて、汚ない字を書いてはいけません。後で讀み返へすのも大變だしそんな悪い癖をつけても困まるからね。

で先づ、書くだけ書いたら、それを讀み返へして

A 字が違つたり抜けたりはゐないか。

B 言葉のおかしな所はないか。

C 吃り吃り書いたり、つつか／＼書いたりしてはゐないか。

D 同じことが二度も書いてありはしないか。

「朝顔の實」

尋四 竹内 公男

太平洋と日本海の間の一つの美しい小さな島があつた。その島の海岸にしょんぼりと一本の朝顔が立つてゐた。そして毎年毎年花だけきれいに咲いてゐた。その上あまいみつをたくさんにこしらへて、蝶々をよんでゐた。そのきれいな花も秋のつめたい風に吹かれて、だんだんかたい實にかわつて行つた。或晩の暴風雨が、津波を持つて来て、その細い朝顔を根もと、さらつて行つてしまつた。その時一ばん小さな、一ばんかはいゝ末子の實はお父さんやお母さんや兄さんたちと別れてしまつた。そして海の中に流されてしまつた。小さな朝顔の實は波にゆられながら、かなしくなつて、しくしく泣いてしまつた。大きい波が来ると天へでも上るやうに高く上り、波がすぎると谷をこへでも落ちるやうだつた。仕合せに、そのうち暴風もだんだんやんで来て、波がゆるやかになつて来た。小さな朝顔の實がうしろをふりかへつて見たら自分の住んで居た美しい島は小さく遠くにぼんやりと見えた。急にかなしくなつて、ふと横を見ると、黒い大きな島が見えた。朝顔の實は勇氣をふるい起して、およいで行つ

た。今少しで島につくと思つた時、大きな波にすひこまれて、その後はなにがなんだかちつとも知らなかつた。氣がついて見ると朝顔の實は黒いやはらかい土の中にたほれてゐた。その島は寒い島だつた。朝顔の實はふるふるへながら、地の中にもぐりこんだ。そのうち、土の上の方でぼん／＼と鐵砲でも打つやうな音が聞えた「なんだらうなあ」と思つて、頭を持ち上げて見たら、自分の國のおんなじの日の丸の旗を持つた兵隊さんがかけて行つた。朝顔の實はいそいで、一ばんうしろの方から足を引きずりながらゆく兵隊さんをよびとめてきて見て見た。「もし／＼兵隊さん、何んですか」「戦争だよ」「えッ、どこと」「支那とさ」「支那と……ここはどこですか」「こゝは滿洲」さう言つてかけださうとしますから、朝顔の實は、いそいで、自分がこゝへ来たことを話したら、兵隊さんは大きな聲で笑ひながら「さうか、それなら戦争が勝つて日本に歸るとき僕が汽船にのせてつれて行つてやるよ」といひました。今、朝顔の實は土の中で、早く戦争が終つて日本に歸れるやうにとお祈りを上げてゐます。(をほり)



租税ノ取扱

材研究

高座・澁谷 飯田 義治

教材 租税 算術書四十四……四十七頁
教材ニ對スル見解ト時間配當

租税ハ小學校算術教材ノ中デ、最も實用の色彩ノ濃厚ナルモノデアル、然シ兒童生活ニハ極メテ遠イモノデアルガ、何故ニ該教材ヲ取扱フカ、其レハ義務教育最終學年トシテ一通リ理解サセルコトデアル。指導法トシテハ該教材ガ計算力ヲ練ル問題思考力ヲ練ル問題デハナク、實際ノ租税常識ヲ養フ問題デアルカラ、事實ヲ叮嚀ニ教ヘ、其ノ理解ノモトニ計算ヲサセル、其ノタメニハ實物、教育標本、等ヲ示シテ理解セシメルコトニ務メネバナラヌ、
私ハ先ヅ此ノ教材ヲ七時間取扱トシタ

第一時 1. 3. 6.
第二時 1. 3. 6.
第三時 2. 4. 5.

第四時 7. 8. 9. 10
第五時 12. 13
第六時 11. 14

目標 (表面)
一、表面ノ租税ト所ハ元高ト歩合ヲ與ヘテ歩合高ヲ求ムル適用デアル。

(内容)
一、租税ノ意義
二、納税ノ義
三、租税ノ種類ノ一班ト賦課、税率、徴收
法
四、國勢及市町村勢ノ狀態
環境・教具……

○環境ヲ整理シテ事實ニ對スル現實性ヲ増シ目的活動ヲ強ク刺激シ、自覺活動ヲ促スコト。
○租税ノ知識ヲ主トスルノデアルカラ、此ニ關スル知識ヲ習得サスコトヲ得バ、八分通りハ成功デアルカラ、郷土ニ關スル教具ヲ全部蒐集シテ學習前ニ教室ヲ租税化シ與ヘルコト。
帝國ノ歳入、歳入、豫算ノ班、納税告知書、收入印紙、納税ノ領收證書、本郷土ノ附加率、公報、新聞紙ノ切り抜き、課税權ノ主體ニヨル租税ノ分類圖、稅務機關一覽圖
方法
教學標本 田 標 教授ノ實際
1 3 6 租税ニ關スル豫算ノ圖表……
備知識ヲ授ケル 學習動機ノ誘發……
既得觀念ノ發見……
租税ノ意義……
國家ノ歳入……
我等ノ費用……
納税ノ義務……
日本帝國憲法第二十一條……
租税ノ分類……
租税ト……
其他收入……
1. 手数料
2. 罰金料
3. 官業收入
及事賣

田租ノ研究

＝説話ニ教授ヲ發
展シ實際化シ事實
的知識ヲ養ヒ後
解題セシム＝

問題	地價	税率	納期	附加 田租稅
1	0	0	×	×
3	0	0	×	×
6	×	0	×	×

三問共ニ納期ガ缺ケテキル
此ノ點ニ注意シテ居ルコト

問題ヲ中心トシテ
地價、税率、土地
臺帳、納期等ニッ
イテ研究サセラル
1. 3. 6 トノ順序ニ
取扱フ理由？
地價、土地臺帳、
田租、納期、附加
稅ナドノコトガキチ
是等ノ研究ヲ全體
的ニ綜合的ニ取扱
フノ始メテ、田租
ノ研究ガ出来ルモ
ノガバ1. 3. 6 問題
ハ所謂部分的分解
的ニ取扱スルニ事
實カテ切レ切ラ
デアル

反省及ビ次時ノ豫定 (1) 反省 今日ノ教授

ハ明日ノ礎デアルカ
ラ反省スベキデアル
1 時間ハ翌日ノ第○時デアル
2 目標ハ地租ノ理解ト解決
3 方法ハ一齊扱ヨリ宿題ヲ
整理ハ後ハ獨自研究セシ
メ個別指導ニヨリ目的ニ
達スルコト

2. 4. 5 地租ノ研究

2. 4. 5 宅地、畑ノ
年額及分納ヲ求
ムルコトヲ教
5 山林ノ税率ヲ
求ムルコトヲ教
北海道ノ山林ノ税
率ヲ求ムルコト
内地ト比較
税率ヲ求ムル問題
提出？
稅率ヲ求ムルモノ
ハイデオロギニモ
ナラズ實際ニモ
地價ト地租ト税率
トノ關係ヲ深ク理
解シテモ此ノ方面
無視スルモノデ
アル

＝以上一時間所要＝

7. 8. 9. 10 所得稅ノ研究 所得稅ノ意義
7 課稅金額1200 第三種所得稅ハ側

圓トスルモノノ
人所得デアルコト
免稅規則ハ年額
ノ如キモノニ依
ッテ詳細ニ見ル
第三種所得稅ハ納
期ニツイテ
總士(村)ニテ所得
控除ニヨリテ求
ムルモノ
10 所得稅附加稅ノ
ヲ求ムルモノ
府縣稅ノ説明

ノ十倍即チ其
數自身ノコト
＝以上一時間所要＝

11. 14 營業收益稅ノ研究

營業收益稅ノ研究
(教師用吟味)
相續稅ノ意義
イ相續稅ハ財產
ラキ
相續稅ハタルトキ
ル國稅ナルコト
イ税率ハ果進ニシ
テ家督相續ト違
テ異ナリ且相續
テ異ナルコト
ハ相續稅納附ニッ
イテ

地 租	所得稅	營業收益稅	相續稅
國 稅	國 稅		
地 方 稅	地 方 稅		
7 計 1	5 計 1		
8 計 1	6 計 1	1	1
關稅	資本利 稅	果	
計	計	計	
2	1	19	

C 補充問題參考書

1 實力養成 登常科第六學年用
補充算術書 佐藤武著
2 算術練習ノート 登常六年 三章堂
3 完成算術 算術尋六 不山淳一著
4 模範 算術完成帳 尋六 年用 日本模範社

D 參考書

1 稅の語 勝正意著
2 算術教授に於ける 事實問題取扱の根據 山本詩一著
3 教材集錄 廣島高師發行
4 主任訓導界
5 模範教授案
6 年 鑑 類

12. 13 關稅ノ研究

＝以上二時間所要＝
關稅ノ研究
關稅ノ意義…(保
護貿易國ト自由貿
易國)
税率及ビ課稅物件
12 税率ハ關稅定
率法ニヨリテ
定メラル
種類ニヨリテ
異ナルコト
物品ノ輸入ノ
際ノ到着價格
ニヨリテ課稅
セルコト
13 貨運品ハ輸入
ノ際ノ到着價
格ノ10割ノ關
稅ヲ課セラル
ハコト
口或數ノ10割ト
ハ其數ノ一割

＝以上一時間所要＝

附記
A 尋六教科書ニ表ハレタル問題 (44P-47P
以外)
50P7 田地山林ノ合計地租ヲ求ムル問題
75P8 所得稅ニ關スル問題
75P6 地租率ヲ求ムル問題
75P7 所得稅ノ課稅額ニ對スル歩合ヲ求
ムル問題
B 尋六算術書ニ表ハレタル教科訓



『素描』對感

Y S 生

素描とは、素描同人等によつて發行さるゝ瀟洒で可憐で小粒で山椒の味のひきしまつた小冊子である、どんな動機で産れ出たかは、固より不案内であるが、窃に想ふ、かゝる自由で真面目な若い人々の獨自の研究の集りの出現は、今の縣教育の舞臺情勢からは必然的の者である。

若い教育者たちの眼に映じた今の教育界の組織とその活動とに對つて、彼等は恐らく聲をあげて「何が吾々を導いてくれているのか、何が吾等の熱と血とを満たしてくれているのか、何が理想塔を築く吾等に一臂を借してくれているのか」そこには床下の黴臭い土塊に似た傳統と、吾々を早老化させるによいなまぬるい偽君子的生活のほかに、なにもありはしないではないか」と叫ばずには措かないであらう。

若し自覺せる集り否な既に自覺するからこそである。吾人はかうした意味で、同人等の過去と將來に大きい期待と敬意を表することを忘れるものでない。

併し若い教育者とは、碁、將棋にうつゝをぬかし、校長のお叱りにやけ酒をあほり、時を偷んで安易にそこらを匍匐ひまはり、猫額ほどの校内で、愚痴ついて好んで感情の動物になり下る教育者や、夢とも幻ともなく朝夕校門をくぐるのみの所謂お人好しの教育者を指すのではない。

柳に風をれなし、悪くはないが日和見主義の軟弱外交はいつか臍までさらつて行かれる謂はゞ教育の賊とある。

眞理の前には敢えてわらつて毒杯をあげた人もある、暴虎の勇吾等固より欲するものではないが、かの三軍を叱咤する剛健の精神、軍人ならずもこの際必要であるまいか、萬事はイエスかノーかの世の中である。

人皆が素描同人でありたいことを望む、かゝる同人の研究組織が隨所に生れて、それ／＼の地方的色彩ある自由研究の熾になることを吾人は歓迎する。

更にこれらの各研究小團體が、地方の先輩によつて指導されてゆくならば、縣下教育の趨勢としては昭和新興教育の好現象として此程慶賀に堪えないことはないのである。

講筵 精神と身體の健康

學校衛生技師 今 井 忠 宗

エマソン氏が「人生第一の財産は健康なり」と云ひましたが實に世の中で何物にも換へ難き至寶は健康であり、健康に勝る幸福は他に求むる事が出来ません。

唯心論者は精神に重きを置いて考へ唯物論者は科學（物質）萬能主義から肉體に重きを置いて考へますが、物心一體である人間は身體も健康であり、精神も健全である事が理想であります、それ故私は精神の健康と肉體の健康とに分ち聊か申上げて御參考に致したいと思ひます。

茲に一言御注意致したい事は「健全なる精神は健康なる身體に宿る」と言ふ格言であります、この格言は一般に身體を強健にせば従つて精神も亦立派になると信ぜられて居ますが、學者の研究によると此の語は羅馬古代の詩人デユ

ヴェナリス氏の詩句「健康なる身體に健康なる精神のあらん事を祈れ」Orandum est, ut sit mens sana in corpora sano. から出たもので「身體も健康であり精神も健全でありたいと望んだ語」であつたが唯物論の隆盛につれ何時の間にやら

Orandum est, ut sit corpus sano in corpora sano. 「健康なる精神は健康なる身體に宿る」と誤解誤譯されたからであると云ふ事があります。

精神の健康

人が世に處するには健康なる精神即ち正しく且強き精神で社會萬般の事に當りたいものであります、正しく且強き精神が社會生活上極めて必要でこれが成功の鍵を握つて居

る著明なる數例を次に掲げて正しく且強き精神の必要を強調致します。

1 朱諱庵の辭「陽氣發所金石亦透、精神一到何事不成」

2 子葉即ち赤穂四十七士中の大高源吾の句「何のその、巖も透す桑の弓」

これは支那で李廣といふ人が黄昏山路を通りかゝり大石を虎と誤認し弓に矢をつがへ一念こめて射たら石に矢が立つたといふ故事を歌ふた句であります1も2も一念凝るときは達せざる事なきを示したもので處世上味はふべき語であります。

3 甲斐慧林寺の僧、快川國師が天正十年四月三日織田信長の怒に觸れ山門樓上で火刑に處せられ火が法衣に及んだ時「安禪必ずしも山水を須たず、心燈を滅却すれば火も亦涼し」と唱へた言葉は精神の統一する處無限の妙力が出る事を示し實に吾人處世上の好教訓であります。

4 又彼の國難來を叫ばれた弘安の役は折よく弘安四年七月晦日夜から閏七月一日にかけて神風が吹いて我國の大捷に歸したのでありますが、然し此時程我大和民族の士氣が緊張激越した事はなく上は龜山上皇、後宇多天皇

を始め奉り下は執權北條時宗以下舉國一致堅忍不拔不撓

不屈の大決心を持ち此大難に直面し戦はずして既に敵軍

を盡滅せしむる慨ありし事は實に此役を論ずる人の忘る

ゝ能はざる所で今日吾々の持つて模範とすべき事であり

ます。しかも執權時宗をして此舉に出でしめた事につい

ては次の如き話があります。

時宗は十八歳で執權職となり弘安四年は三十一歳の血氣盛りの年令でありましたが豫て勇氣修養のために、支那より渡來した祖元禪師につき禪を學びましたその最初相見の時の問答に

時宗「人生憂患怯弱を以て最なりとす、如何に脱すべ

けん

祖元「脱する事最も易し、須らく怯弱の來所を杜すべ

し

時宗「怯弱孰れの所より來る」

祖元「時宗より來る」

時宗「時宗怯弱を忌むこと甚し曷を時宗より來ると言

ふや」

祖元「誠に來日より時宗を放擲せよ」

かくして時宗は勇氣を修養し鐵心石腸驍手として日本を負ふて立つ様になり頼山陽をして相模太郎膽甕の如しと評せしめたのであります。

身體健康

身體健康の第一要件は強き精神であります。精神力が旺盛ならば僅かな病氣には罹らずに済み反對に精神が弱い人は些細の事に心を疲し即氣を病みその結果虛弱となり或は病氣に罹る様になる事があります。

これに關しあまりよき例ではありませんが次に一例をあげます即ち

獨逸のコツホと云ふ細菌學者が政府の命により印度に赴きコレラの研究を行ひ西曆一八八三年彼の恐るべきコレラ病の病原はコレラ菌であると發表しました、然るに同じ獨逸でベツテンコフエルといふ衛生學者は之を否定しその證明として爲念遺言までして西曆一八九〇年即明治二十三年十一月十日強き確信を以てコレラ菌純粹培養一坵を飲みましたが幸にして輕い下痢に罹つた丈でありました。この實驗によりコレラ菌はコレラの病原菌ではあるが身體に抵抗力が十分(胃が健全)であればたとへコレラ菌を飲んで

液の分泌は人の精神狀態により増減がありますから、恐るる飲食すると無害のものでも精神的に不良の結果を來し下痢等を發する例は吾々の屢目撃する所であります。

身體健康の第二要件は體育運動の不斷の實行であります體育運動とは人の人たる所以の根本である眞、善、美の啓發を理想とする筋肉運動であつて單に享樂の爲、肉の爲、又は勝んが爲の筋肉運動ではありません。即ち右の如き體育運動を實行する際には權威も、情實も許されない、眞に裸一貫強い者が勝ち弱い者が負ける實に至純至眞公明正大でこれ位如實に徹底的に眞を發露する事は外にありません。

又多くの人が同一の場所と同じ興味と趣味の裡にあらゆる對峙反目、障壁を取り去り平等一如の氣分に溶け合つて無垢の情緒が流露するものも右の如き體育運動で其實施の間に善の徳性が培はれます。しかして美の極致を具象化した人體美を完成し以て圓滿具足全智全能の神に近づかん事を理想とするのが體育運動であります。此體育運動を各人が普く、季節、年令、性、體質、(身體狀況)等に適應し斷えず、正しく實行する事は極めて必要で身體健康の要諦であります。その具體的方法是茲には省略します。

序に申して置きますが體育運動と作業又は勞働とは大差があり作業又は勞働は一定の目的のみに對し特定の筋肉運動をなすもので運動が身體の一部分に偏し多くは（主として屈筋のみを使用するの結果）屈筋の偏勝により一種の固癖を身體につくりまゝ。

體育運動は前述の通り人を作る手段であるのみならず作業又は勞働等筋肉使用の不均による身體固癖又は先天的並に後天的形態異常を矯正する事が出來ます。その方法等は他の機會に譲り茲には省略します。

身體健康の第三條件は日光、空氣、水、土、自然の利用榮養、體養の合理的實施であります。

日光は多くの生物には必要であります、而して日光の中必要なのはウィルヘルム、リッテル、T. Wilhelm Ritter氏が一八〇八年二月二十二日に發見した莖外線 *Violet Strahlen*（一般に紫外線と云ふて居ますが學術的には適當な言葉ではありません）ドルノ氏 *Dorn*の研究によると莖外線の中波長3100 A.U. から2900 A.U. までのものが發育、健康、佝僂病豫防並に治病上極めて必要である事が判明し同氏は右の波長の莖外線を健康線 *Health rays* と云ひ

ました古來の、日向ぼこり、最近の日光浴乃至日光療養の目的は此健康線の利用に外ならず又戶外運動の奨励もその一因は日光の利用であります、その詳細を申述べたいのでありますが都合上茲には省略します。

空氣殊に新鮮なる空氣の呼吸は血液中の瓦斯成分の新陳代謝上極めて必要であります而して此瓦斯交換を行ふ肺の呼吸面積は一八八一年ツンツ氏 *Wundt* の計算した處によると九十平方米即約五十疊處であるといふ事であり茲に毎呼吸大凡五〇乃至四〇〇立方センチメートルの空氣が出入し瓦斯交換が行はれます、従つて新鮮な空氣中で適切な呼吸運動及び深呼吸等を行ふ事は血液瓦斯新陳代謝上必要である許りでなく呼吸器の保健上にも必要な事でありまゝ、又新鮮なる空氣中にて適當なる運動を行ふ事は所謂空氣浴を行ふと同一理由で皮膚の瓦斯交換を促すのみならず體溫放散も適當に行はれ皮膚の機能を旺盛ならしめるからて行ふべきであります。

私は皮膚機能を高めるために和服の時には冬でもシャツ・ズボンなどを使用せず又襟巻を用ひず、あまり厚着をしない様に致して居り人にもその實行を御勧めして居ります

は申述べない事と致します。

休養運動後に適當の休憩をなし夜間相當時間熟睡する事が必要でありますが兒童睡眠中には左記事項に注意する事が必要であります。

- 1 夜ふかしを禁じ朝寢せしめざる事
- 2 刺戟を少なくする事（暗く静かにする事）
- 3 仰臥位を取らしめ手足を延ばしてねかす事
- 4 いびき、ねごと、ねとぼけ、ね小便の有無に注意する事

要するに虚弱兒童では疲勞恢復遅きため朝寢する者多き故早く寢に就かしめ充分熟睡せしむる事が必要であります又鼻咽喉等に疾病ある者はいびきをかく者多く扁桃腺肥大又は腺様増殖等ある者はねごと、ねとぼけ、ね小便等の癖ある故醫師の診療を求めなければなりません。

身體健康の第四要件は各人が衛生上の良習慣を體得する事であり次にルーウエズルト *Loewenherdt* 國民體力維持委員會の報告を申上げて衛生智識並に良習慣の有無が如何に國家並に個人の利害及び經濟に影響するか皆様の御反省に資したいと思ひます。即ち同會の調査によると國民の衛生智識の不足のため國民一般の壽命は十五年短縮し少くとも年々六十萬人以上餘分に死亡し病院にては餘分に百五十萬臺の寢臺を要しかくして年々三十億圓以上の損失をして居ると云ふ事でありまゝ。

水の利用の第一は冷水摩擦であります。水は熱の傳導性が空氣より廿八倍強く比熱の値は空氣より三千倍強いから同量同溫の空氣に比し觸れた物體から熱を奪ふ力即寒刺戟を行ふ力が九萬倍強い。冷水摩擦は此の力を利用し皮膚の機能を高むるのであるが此外意志を鍛練し道德方面の情操を練るに著しい効果があるそれ故その實行は青春の危機に立てる青少年には運動奨励と共に教養上必要であります。

又、水は人體の大部分を占め日常生活の必需品でありますから水質優良なることゝその汲出裝置の完全なる事が必要であります又飲用する迄に蠅その他の動物又は汚れたる手等により水質の汚染せられざる様注意する事が必要であります。生水にはカルシウムや遊離炭酸等が存在しこれを攝取する事は健康上必要な事であるから私は右にあげた諸條件さへ備はれば飲用には生水を推奨します但し低溫又は高溫は消化を多少妨げますから食後飲用には適溫の湯茶を給せられたいと思ひます。

土に親しむ事も健康上必要であります従つて兒童に對しては土遊び、裸足等も適當に行はせたいと思ひます殊に扁平足、平坦足等の兒童に對しては裸足にて砂場歩行せしむれば大部分は矯正する事が出來ます。

榮養殊に食物に就ては別の機會に申し上げる事とし茲に

講筵

マルキシズムに就いて

慶應大學教授 川合 先生 講述

今日マルキシズムが各方面に色々と働きかけてゐるが、之に對する充分なる理解が缺けてゐるため知らず識らずのうちに引込まれて仕舞ふ者が多い様である。故に之を充分に理解し批判する事が肝要である。今日一般の傾向は、何物にも批判力なく、たゞ公式的に斯く斯くと信じてゐる事である、かゝる傾向が思想方面にてはマルキシズムに赴かせざる主なる原因である。

今日は此の四時間に、マルキシズムの如何なるものか、如何にして起りしか、如何に誤れる思想なるか、ロシアの現状と併せて述べやうと思ふ。一體外來思想は我が國に度々入つて來てゐるが、是は一面には危険思想として害をなしてゐるが一面には利益を與へてゐる。古い時代では支那思想なども一種の危険思想として實社會に影響してゐる。大

化の改新は言はゞ共產思想の現れで從來の制度を破壊したが、その上に健全な社會が樹立されてゐる。故に支那思想は一面健全なるものであり一面危険性を有するものである。印度思想も亦同様である。我が國固有の思想を豊富ならしめた一面弊害を及ぼしてゐる。即ち政教一致の政治を實現して歴史上一大改革を惹起した事でこれは云ふ迄もなく印度思想に結果したものである。

明治維新以後の思想とマルキシズムとは一脈相通する所がある。此の時代の思想は歐洲にて主として十八世紀に起つた啓蒙思想で自由平等の思想である。人間の價值が認められた近世に於ける大發見の一である。中世に於いては自我が認められず、従つて人間の價值が認められなかつた。それが近世になつてギリシヤ文明の影響によつて人間價值が



認められ、自由、平等の思想が盛となつた。カントは「自由或は啓蒙とは人間が一人前になつた事だ」と言つてゐる他人の指導なく、自分の判斷でやつて行く事である。是が十八世紀に盛になり歴史に非常なる影響を與へてゐる。米國の獨立の思想的根柢は此の啓蒙思想で、獨立の宣言に「我等は自由、平等に生れてゐる」とある。つゞいて佛蘭西大

に於いて所謂産業革命を起すに至つた。即ち機械を工場で使用する仕組がだんだん生産方法を變ずるに至つた事である。

革命あり、その人權宣言に「我々は自由、平等の權利あり」と述べてゐる。兩者共に同一の思想である。是が明治維新後我が國に入り自由民權の思想と爲り、政治の方面のみに働いた。何故なれば、此の時代は未だ財政方面は影響を受ける程度に進歩してゐなかつたからである。

此の産業革命は十八世紀の初葉、即ち一千七百年頃から英國に起り、次第に發展して、佛蘭西、獨逸と相繼ぎ、益々その勢が盛大となつた。英國では紡ぎ機械、織機、蒸氣發動の發明があり、此のために生産方法は一變し、所謂産業革命と成り、種々の工場が出來た。此處に働く労働者は初めは自由放任主義の下にあつた。故に資本家は安く使つて利益を得んとする所から小兒、女等を盛に使用し、此の害は十八世紀の末には最も甚だしく五、六歳の小兒までも使用し、時間にも極端なのは廿三時間にわたるものがあつた。

此の思想が政治方面に進んで種々の運動が起り、遂に憲法政治の確立と爲つた。これに至る思想の根柢の一は歐米の自由平等の思想と云ふ事が出来る。これにも利益の一面に弊害が伴つてゐる事は見逃す事は出來ぬ。即ち維新以後の不祥事件がそれである。

これから述べんとするマルキシズムの思想の根本動機は各自由平等の實現にある。此の點から言ふならばマルキシズムも必ずしも非難すべき思想ではない。是が經濟方面

當時の上院にて、議員が關係醫師に「小兒を廿三時間も使用して何等害なきか」との質問に對して「廿四時間以下の制限を知らず」と。斯くの如き労働状態は、獨り英國のみならず、マルキシズムを組織立てたマルクスを生んだ獨逸等も後に起つた産業革命のために労働者は全く悲惨な状態にあつた。

此の英國の勞働狀態を、マルクスが獨逸を追はれて英國にある間眼前に目撃し、之に刺戟され尙大英博物館の書籍を調べてマルキシズムを組織立てたので、かゝる勞働狀態の出現は資本主義では當然に結果するものと考へた。

搾取するもの、される者此の基礎の上に立てられたマルキシズムによれば、資本家は搾取する者、勞働者は搾取される者と考へられる。英國の産業革命以後の勞働者の狀態を理論化し、之に獨逸の哲學を加味してマルキシズムの社會主義體系を樹立したものである。

獨逸の哲學思想とはホイエル、バツハの唯物論の思想で、一言にして云へば物質が凡ての基礎をなすとするものである。之にヘーゲルの辯證法が結びつき、マルキシズムにては唯物辯證法となつた。即ち獨逸の哲學思想と英國の勞働狀態とが結合されてマルキシズムの體系が組織立てられたと云ひうる。

社會主義體系としては、他に比較する事の出来ぬ大規模のもので、これ以外にも種々の社會主義がある。此等は産業革命以後起つたもので佛のサン、シモン、フリエ。英のオーエン等がある。サン、シモン、オーエンは共に博愛主義の

人で、米國に小共產村を造つたが失敗に歸して仕舞つた。マルクスは此等の人々は、たゞ理想を示したのみで、その方法は現實を離れたものだと思へた。これが後に空想的社會主義と呼ばれる所以である。

マルクスは此の理想の實現は勞働者の力によらざるべからずとし、前述の社會主義體系を立てた。哲學あり、社會學説あり、實踐の方法あり、青年學徒を引き付けるに最も適當な思想體系である。これを批判する事は容易な事ではないが大體の見地を持つ事が最も重要な事と思ふ。以上はマルキシズムの發生した由來の大體である。

次にマルキシズムの根本思想は何か、
第一に、マルキシズムは、物質が社會事象の凡ての根本だとする所謂唯物史觀の上に立つ。即ち唯物論の歴史觀である。

此の唯物史觀を體系的に論ずるにあらず、これも根本思想としてゐるのである。「生産關係が社會過程、政治過程、精神過程を制約する」と考へる。即ち「人間の意識が其の生活を決定するに非ずして其の社會的存在（生産狀態）がその意識を決定する」と。此の考へから社會上、政治上、精

神上の事柄は凡て經濟上の生産關係で決定すると、かく考へるのである。

マルクスの共力者エンゲルスは「政治、法律、宗教、文學、哲學は經濟の基礎の上に立つ上層建築なり」と言つてゐる。要するに物質を以て凡ての社會事象の基礎とする唯物史觀を根本原理としてゐるのである。

故に經濟關係から使ふ者と使はるゝ者とが生じ、その間に階級闘争が起ると、マルキシズムにては原始共產の社會が先づあり、これから進んで管理經濟の社會になる。此の時に使ふ者或は被搾取者との階級に分れ階級闘争起ると。共產黨宣言にも「凡て從來の歴史は階級闘争の歴史である」と言つてゐる。此の階級が近世になつて頗る單純化して一方にブルジョア、他方にプロレタリアの兩者となつた。此の兩者の争ひは益々厳しくなると云つてゐる。それは、資本主義の發達に伴ひ、生産は益々大規模となり、多數の勞働者が出来る一方、資本家は反對に競争の結果少數となり資本は多額となる。従つて大規模の生産となり、尙生産費を軽減して利益を多くせんとする所から、資本家は機械を使用して少數の勞働者で間に合はせる。

こゝに勞働の性質が均一となり、相類似したものとなり、單純化し、誰にも出来て、熟練が不必要となり、工場で働かうる者は無制限に増へ所謂勞働豫備軍が出来、就職の競争、賃金の低下となり、僅かに生活しうる程度の賃金に低下する。

かく成ると資本家は益々富み、勞働者は益々窮乏化或は貧困化する。ブルジョアは凡てを持ちプロレタリアは無一物となる。勞働者は團結して資本家に當り、闘争は益々尖鋭化し、從來ならば中産階級が介在するが、これが無くなり二つに分れた結果勞働者の數が増加して遂に資本家を倒すに至ると。勞働者の團結が固いだけの理由で、資本家が倒れるのではなく、それ以外にも倒れる理由があると。即ち昔は自給經濟であつたが、今日は需要數量を豫想して大量生産を行ふ所から生産過剰が起る。その結果經濟上の恐慌起り資本家倒れ資本が大きければ大きいだけ此の恐慌は大規模なものとなる。資本家の倒壊の結果必然的に共產の社會となる。但し直ちに共產社會となるに非ず、過程として勞働者獨裁の社會が出来、之を過ぎて遂には共產主義の社會となるのである。以上の説は所謂辯證法の考へが入つ

てゐる。

ヘーゲルの辯證法に就いて一言しやう。

ヘーゲルの哲學では「純粹實在」(世界の根本)は未だ如何なる性質が、混沌として判明せず、無と同じなり。此の無と有と綜合して成となる。

立 定
反 (無) 綜 合

成 (合)

立 正 (有)

此の方式にて世界の發展を考へて行くのである。マルキシズムは之を自己の體系に應用したものだ、ヘーゲルが心を立場として思惟と實在の一致を論じたのに反して、マルクスは之を物質を基礎とする自己の考へに適用したのである。

マルキシズムによれば心は物の反映なり、思惟は經濟關係の反映なりと云ひこれマルキシズムの唯物辯證法にて此の方式に従つて社會が働いて行くと見、階級闘争は要するに辯證法の表れなりと。

辯證法がヘーゲルに出で、マルキシズムの何所にも現はれ

る。ブルジョアとプロレタリアの場合にも資本家が労働者

を産み相容れず、その中間階級なく、其の闘争の綜合からより高次のものが出来ると。労働者の窮乏化、中産階級の滅亡、階級闘争、資本家の滅亡、これからより高次のものが生れる。これ正と反との契機が揚棄されたものであるとかく社會事象に辯證法を適用して行くのである。

マルキシズムでは、從來の論理は動かぬものを見る場合にのみ限られ動く現實の社會は辯證法を以てせざれば其の真相を把む事は出来ぬ。即ち形式論理は抽象の世界には適用出来るが生きた世界には辯證法を適用して考ふべきである。

社會の事象は辯證法の運動だと解してゐるものである。AはAなりは形式論理の考へで辯證法によればAはnon-AにてHoudaはAなりとなる。こゝに矛盾の一致がある。資本家の考へ方は前者で固定的であるが現實はかゝる固定したものではない。

宜しく辯證法の考へ方にて考ふべきだと云ふ革命的な考へである。

以上はマルキシズムの根本思想に就いて述べたが、これから其の批判を試みる事にしやう。第一にマルキシズムの根

本思想たる唯物史觀に就いて。

唯物史觀は、社會事象は凡て經濟關係によつて決定するとするものであるが、果して此の考へ方が正しいだらうか。

マルキシズムを遵奉する人々の内にも此の唯物史觀の考へ方に就いては随分反對がある。

此等の中にマルキシズムの誤謬を修正せんとするものに修正派なるものがある。獨逸のベルンシュタイン之を唱ふ。

此の説から言へば「物質關係が社會事象の凡ての基礎なり」と云ふ事は誤りであると。經濟關係も基礎かも知れぬが、

一面精神關係を見逃す事は出来ぬと。

精神關係が、將來益々重きを成すと考へられるが、兎に角兩者を認める修正派の考へは、吾々から見れば當を得たものである。歴史をたゞ經濟關係にのみよるものと考へ精神關係は認めぬ。認めたとしても、それは經濟關係の反映として認めるに過ぎぬ。かゝる歴史の解釋が試られてゐるのである。

吾が國史にしてもマルキシズムから解釋するならば古代史中世史、明治維新史も經濟關係から觀て行くのである。維新の歴史は大義名分の精神文化を重視するものだがマルキ

シズムによれば、これも要するに物質の反映として仕舞ふのである。此の解釋が如何に牽強附會なるか明瞭に判る。

近來の反宗教運動の立場もマルキシズムである。マルキシズムによれば今日の宗教は資本主義の反映である。宗教は管理經濟が基となつて起つたと云ふ考が適用されてゐる。

即ち心が體を支配する事は管理經濟の關係をうつしたものだ。酋長の靈魂は尊長すべきものとの考が起り、此所に宗教が生じ、進んで今日の宗教となつたのだと。今日の教

壇の組織が經濟關係の組織である。古歐洲では教壇が經濟關係を營んだ事がある。要するに宗教は經濟關係から生れたものだと云つてゐる。以上言ふ如く宗教が經濟から生れるものだらうか。

今日の教壇が社會事象なる以上、社會生活の影響を受けてゐる事は首肯し得るが、宗教そのものが經濟から生れたとは思へぬ。人間が心と體から成る事は經濟から來るとする事がすでに獨斷である。管理經濟にも達しない原始民族と考へられる人々でも既に何等かの宗教を持つてゐる。例へば印度のベタ族等は魔を信仰してゐるが、是も要するに人間の魂から考へられたもので、管理經濟が反映して生じた

とは考へられぬ。マルキシズムの牽強附會がこゝにも存在する。

學問藝術にても此の考へ方をする。哲學も社會の氣分に影響される。厭世哲學は社會の氣分の然らしむる所で社會の經濟關係から來るものである。と。

しかし、かく經濟關係から哲學が起るとは考へられぬ。哲學にても種々の哲學があり、民族及び個人によつて異なる。之を經濟關係から説明する事は出来ぬ。

其の他政治組織にても經濟關係から説明し様とする。

しかし、是も單なる經濟關係だけで説明して仕舞ふ譯には行かぬ。民族の特性を考へねばならず、生産關係が社會の凡てを動かすならば何所も同じ状態と成る譯である。然るに事實は往々之に反してゐる。これ生産關係のみで歴史を決定して行く事の誤りなる譯である。

しかし從來の歴史が精神方面を餘りに重要視した傾向に對してマルキシズムはその閑却された他面を提唱した所は看過すべからざる所である。ヘーゲルの歴史觀は理念の發展が歴史として發展するものと解した。之に反對して物質の他面を主張して忘れられてゐた方面を附加した功績は認む

べきも餘りに之を高潮した所に誤謬が存するのである。かく經濟關係によつて歴史を決定せんとする事が誤りの源となるのである。

唯物史觀からすれば「生産關係が意識を決定する」と。故に生産關係を變へれば社會も一變すると説く。しかし是は獨斷であり、此の獨斷がマルキシズムには最後まで附いて廻るものである。次に唯物辯證法が果して眞理なるか否かに就いて。

是はヘーゲルの辯證法を社會に應用したもので、辯證法の契機（正、反）は相反したもので、其の中間はなきなり。甲なるか非甲なるかにてその中間はなし。此の方式を適用してブルジョアとプロレタリアとの中間の中産階級はなしと。現在の中産階級は必然的になくなるべきである。これが果して事實かどうか。ブルジョアとプロレタリアとは全く利害相容れざるものか否か、又唯物辯證法による如くブルジョアは益々富み、プロレタリアは益々窮乏化するものだらうか。

これも事實に就いて見れば、マルキシズムの言ふ如く、利害全く相容れざるものではなく、寧ろ資本家と労働者とは

或る點では利害相容るゝものであり又かくあるべきでもある。理論的に考へて利害相反すと考へられぬ事もないが、一般の場合兩者は決して矛盾の關係にあるものではない。

歴史發展上から觀てもブルジョアとプロレタリアとは利害相反するものではなかつた。資本主義の發達と共に國家は富んで來た。之に反して労働者は窮乏化してゐる筈である。しかるに事實は之に反して労働者の境遇は一般に非常に向上して來た。英國のバートランド・ラッセル氏は自由思想家であるがマルキシズムの此の主張に反對して曰く、

「英國は十九世紀の初葉に於いて國富が非常に増大したが此の恩恵はブルジョアのみならずプロレタリアも受けてゐる。たゞ遺憾なるはプロレタリアはブルジョアの割合で恩恵を受けてゐなかつたと言ふ事である」と。特に最近ではプロレタリアにしてブルジョアを兼ねてゐる者もある状態である。

マルキシズムの言ふ如く一方に凡てを持つブルジョアもなければ、一方に無一物なるプロレタリアもなきなり。社會には無數の階級があり、英國の如き資本主義の國家にても、プロレタリア中から中産階級が出來つゝある。目下は

一頓挫してゐるが労働者の待遇は非常に向上しつゝある。

日本にあるフォード會社の如きは日給五圓と言ふ例を示してゐる。勿論これは例外かも知れないが。かく考へればマルキシズムの言ふ如く労働者が益々窮乏化して仕舞ふ事もなければ、中産階級が滅亡する事もないのである。

目下盛に言はるゝ「中産階級の轉落」と云ふ事も事實あり得ない事である。

マルキシズムにては次の立場から此説を成してゐる。

中産階級の轉落は維新に於ける土族の沒落と同様なりと。社會制度が變れば當然減びる階級があるだらう。しかし明治の歴史は土族の力によるもので、此の土族階級は形の上ではなくなつたが別の形で社會に存續してゐる。故に土族が無くなつたから中産階級が無くなると云ふ事は一種のゴマカシである。社會變遷に伴ひ古い形の中産階級は沒落するかも知れぬが之に代る新しい中産階級が生ずるものである。此點は修正派の人々も認めてゐる。獨逸にても中産階級は統計的に益々増加しつゝありとベルンシュタインは言つてゐる。今日の不況では幾分異なるかも知れぬが米國の統計によると一千九百十三年頃から十年間の米國の有價證券

を持つ者の数が此の間に十倍に成つた。即ち十倍だけ中産階級が増加した譯である。米國の資本主義が中産階級を十倍に増加せしめたとも云ひ得るのである。

日本にても古き中産階級が減びる一方、新興の中産階級が興る事が大いにあるのである。

要するに中産階級が轉落すると言ふ事は唯物辯證法に誤られたと云ふべきである。

マルキシズムにては勞資の關係を相容れざるものとして資本家を倒す事が終極の目的であるとした。故に資本家に對する恨を煽り立てる必要がある。此のために理論づける事が始つた。即ちエンゲルスの所謂マルクスの一大發見と稱する所の「資本生成の秘密」と言ふ事である。資本は勞働者の勞働を盗んで得たるものである。マルキシズムでは商品の價值を二つに分ける。一は使用價值で、二は交換價值である。一は品物の効用にて又交換され得る價值あり。之二なり。所で交換されるには標準がなければならぬ。使用價值は共通でないから交換の標準とはならぬ。マルキシズムでは勞働が交換價值を決定すると。資本家は勞働者を頼んで交換價值を品物に與へるものである。勞働者の生活を

保證するに足るだけの賃錢にて勞働力を買ふのである。五時間にて引合ふ時に十時間働かせ五時間分は剩餘と成る。此の剩餘價值が蓄積せられて資本と成るのであると、即ち資本は勞働者の勞働を盗んで出來たものなりと。これ勞働價值論にて勞働者の恨を煽り立てる好個の理論である。かくの如き理論が果して正當なるか否か、

マルキシズムにては勞働に單なる分量の差異を認め質の差異を認めぬ。而して性質の差異は分量から轉化するものである。と生産の場合に精神勞働は認めぬのである。生産の場合の精神勞働も種々ある。工場設計から經營方法、賣りさばき方面等の精神的方面を全く無視し勞働力のみを認めてゐる。こゝにマルキシズムの一面觀があるのである。

唯物辯證法からすればかく考へざるを得ないのである。かくして資本家と勞働者との闘争から必要的に共產社會が生れると考へる。しかば共產社會とは如何なるものか、即ち搾階級、被搾階級の區別なき社會を云ふ。此の過渡の時代として無產者獨裁の時代がある。此の時代を過ぎて眞に階級なき社會と成ると。此時は既に國家なき社會である。

唯物史觀からは社會事象は生産關係の基礎の上に立ち、今日の國家は資本家擁護のための國家に外ならず、外的強制

の社會、他律的社會である。しかるに共產社會は外的強制なき自律的社會にして、今日闘争を事としてゐた人間が自律的に行動して行く様に成る社會である。これは生産關係が意識を決定するとする唯物史觀の考へによつて理由づけられてゐる。

上述の如く共產の社會と成つた時かくも人心が一變して仕舞ふだらうか。

ケルゼン氏は之に反對して生産關係が變つたとて人心までが必ず變るものではないと云つてゐる。人間は營利の本能のみが滿されたとして其の他の本能がある。此等は國家の力で強制する必要がある。共產の社會となつたとて人心が一變して仕舞ふ事はないので、此の考へは唯物史觀に立つ所から來る謬見である。

要するにマルキシズムは人間心理を餘り單純に考へてゐる。資本家は搾取するものとして、人格化したる經濟人とした假定の上に立つ理論である。故に人間心理の複雑性を見過つてゐる。故に彼等の畫いてゐる様な共產の社會は事

實あり得ぬもので一種のエートピアに過ぎぬ。

此の實例をロシヤが示してゐる。

其の理想とする自由、平等は決して實現されてゐない。ロシヤの現状は少數の共產黨員が獨裁政治を行つてゐる。自由も獨立もなくだゞ強制があるばかりである。自由があるとするならば乞食と性的本能の満足があるばかりである。

此の以外には、人間の精神活動には、個人的自由なく、勞働紹介所の命令によつてシベリヤへでも何處へでも行かねばならない。ロシヤの如く多年專制政治になれ、國民の七割以上も無學な國民にして始めて堪え忍ぶ所であるが、文明國民の到底忍ぶべからざる所である。

かゝる現今の共產社會では純然たる奴隸狀態である。共產黨員は之を以て過渡期の止むを得ざる狀態だと云ふだらうが此の狀態が永續して行くに違ひないのである。(終り)





世界新教育聯盟ニース會議とは

一九三二年夏佛蘭西地中海沿岸

一 教育は社會變化の基調をなすであらうか？

會議主題 『教育と社會の變化』

現在の教育者を二つのグループに分ける事が出来る。第一のグループに属するものは、より良き社會の秩序はたゞより充分に然も自由に啓發せられた人々によつてのみ築き上げ得るものと考へ。第二の部に属するものは、個人の發展は國家の必要によつて嚴格に命令されねばならぬといふ考をもつた人々である。此の第二に属する人々の方法は明白であり剛直なもので、學校に於てコミュニズムを教へるロシヤ、又ファシズムを教へる現代伊太利は將に此の方法に由れるものである。第一の方法は極めて乗るか反るかといったやうな危急の位地を含むもので、此れを行ふには均衡と智識とが必要である。何故なら充分なる然も出來得る限りに個人の進歩啓發を唱導する人々も、猛烈なる個

人主義はたゞに人々を無政府主義者たらしむる充分なる危険を感じて居るのであるから。

子供は自由なる空氣の中に、古來の僻見と恐怖に傷けられる事なく、在來の道德律と行爲に妨げられる事も無く成長すべきものと考へてゐる。然したゞ自由の中に成長した子供は、現今の社會に順應する事が出来ないといふ事が發見せられたので、例のハンブルグ學校の有名なる經驗が修正されなければならない。然も此の修正は社會其のものから提起せらるべき事のやうに考へられる。

然しながら個人の充分な調和的發達にとつて重要なものは適當なる社會的順應である。此の順應性の缺けてゐるために非凡なる人間が世人より嫌惡され、または不幸に或は反社會性の人間となる事も屢々起り得る事である。其れ故吾々は正しい環境を與へるのみならず自由も與へねばな

らぬ、そうすれば新時代は進化劇にかなりの役割を演ずるやうになることは疑の無い事である、更に吾々は社會的に順應するための充分なる絶へざる機會を與へる事に留意すべきだらうと考へてゐる。

國民的發展についても同じ問題は色々起つて來る、國家主義と適當なる國家的誇りは國際的感念を排撃するであらう？亦國際的感念は自分自身の國家の否定とか漠然たる世界主義にのみ築き上げるものであらう？或は國家は各々共通の善のため共通の和解のために充分の確信と認識とをもつてゐたならば、何の躊躇も無く威信も失墜する事も無く貢獻する事は出来ないものであらう？

今一つの問題は社會的變化は最初に來て教育的變化は次に來るべきものであらう？或は教育を通じて新しい社會秩序を齎し來るやうに心掛くべきであらう？

吾々全教育機關は吾々が生存してゐる社會の極めて迅速なる文明の變化について強き精査を要求するであらう？若しもそうすべきであるなら、何うして總てのカルチュアールを缺陷なく又傳統文化を失ふ事なしに過重の教科を輕減する事が出來やう？

此の問題は現代生活の必要と現代の心理學の要求と歩調を合せて行つたなら常に循環的に起つて來る問題なのである。以上の如き諸問題は遂に新教育聯盟が第六回目の萬國會議の題目として『教育と社會の變化』を選択するに至つた所以なのである。

即ち社會に起る急激なる變遷によつて生ずる新なる要求に對する教育は如何にあるべきか、又如何に教育が社會の改善に貢獻する事が出来るかを對究せんとするのである。

二 題目とプログラム

佛蘭西のニースが會議の最も適した、場所として選擇された。そして會議は一九三二年七月二十九日から八月十二日までと決定された。

プログラムは前述の如き二つの一般的問題を取扱つた多數の名論草説が發表網羅される豫定である。

即ち如何に教育を現代の社會的要求に合致せしめるか？如何に教育と學校はより以上の社會的要求改善を促進し得るか？尙又各種の國家的組織の進歩發展に關しての演説も行はれ更に新しい教育方法と新しい心理學の講演なども會議の最も重要な一部會をなすものである。先の一週間に

屢々新教育聯盟の委員の非公式會合も行はれ後の一週間に決定した結論の發表がある。

會議は四つの部門に分れ其間に講演もあり、發表も行はれ論議も交はされることになつてゐるのである。

一 主要講演 教育と社會變化に關する一般の問題

二 部會講演と討議

A 教育と社會的要因、一般的カルチュアと職業的訓練

B 特別なるグループの教育諸問題

1 田舎の學校

3 大學専門學校教育

2 都市の學校

4 女子の新境地とその教育の結果

C 家庭

1 社會學と心理學

2 親と教師、親の再教育等

3 幼児教育等

D 閑暇の教育

1 成人教育

2 青年運動

E 教師の訓練

F 國際的協同、人種間の理解等

三 講演、教育の國家的組織に於ける進歩

四 研究發表、これは特別入場料を必要とする

A 最近心理學と教育

1 兒童心理學

2 教師及親の心理學

3 性教育

B 教科課程の再構成

1 デクロリイ法

2 プロジェクト法

3 上學年の個別教育法

D 教育と藝術

1 詩

2 劇

3 音樂

4 律動法訓練

5 會話訓練と合唱

三 講演者

會議の議長はフランス、カレツヂのポール、ランゲビン教授である氏は絶大なる國際主義者で又偉大なる物理學者でありフランス學界に於ける偉大なる學者の一人である。又プロシヤの前文相シー、エツチ、ベツカー氏とロンドン大學の教授バアシー、ナン卿とが副議長である。

最近支那は國民教育の實際的系統を組織するために、國際聯盟にすぐれた獻策をする専門家の任命を申込てゐる。其處で四人の専門家が此の使命をはたすために智的協同に

よる委員として任命されたのである。即ちランゲビン教授ベツカー博士ボーランドのエム、フアルスキーとそしてアール、エツチ、タウネイの四氏である。これ等の委員がニースに支那から二人の代表者の出席方に努力するといふことを約束した。此の教育學者の中三人が直接此の新教育聯盟と關係してゐる事は非常に興味ある事である。

又日本に於ける新教育協會の成立は諸外國人をして日本よりの最も興味ある貢獻が期待せられてゐるし、更にロシヤの代表委員の出席についての交渉も既に着手してゐる。フエリエール博士は南亞米利加への旅行をせられた關係から、多く南亞米利加の學者に招待狀を發して居り、更に講演者として既に決定した學者は、デョウデ、ケルシエンシユタイナ、ジョン、デニューイ、アロイス、フィスカ、ジャン、ピヤアデ、ウイリヤム、ボイド、ショウハウス、ハロドラツグ、オヴィデ、デクロリイ、ウオッシュバーンを始め殆んど世界各國の教育學者心理學者教育哲學者を網羅してゐるが如き感を呈してゐるのである。

四 遊覧見學とニース

ニースは休日の遊覧地としては大人にとつても又小供に

とつても無上至高の樂天地である。一般に此のニースが會議の場所として選擇されたことを期待してゐる。何故なら餘り餘暇の無い人にとつてはニースはバリーから直ちに到着する事が出来、又暇のある人は地中海沿岸からリヨンの西方秀麗なる山岳地方に到る名勝古蹟を樂しく散策し得るのである。更に海路マルセイユに達する事も出来れば、東して自動車でモナコ王國に接する風光明媚のコルニツシエム山莊を重疊ドライブして勝景を盡くす事も出来る。

又會議が終つて後更に餘暇をもつ人はアルプスを手近にひかへ、イタリーにもコルシカ島にも容易に達する事が出来るのである。ニースは心地良き現代式のホテルが澤山に建つてゐる。然し總ての階級に利用せられ得るやうに出来てゐて、現今の如き時代に於て最も重要な事は極度に經濟的であらねばならぬといふ要求に全然合致してゐて、一日の宿泊料は二、五圓から七圓位までである。然も海はみどりに臨海アルプスの連峰を背後に望み、陽は輝き樹木の茂つた丘には松、ユーカリ、橄欖、棕櫚が茂つてゐてニースは灰色の空や北國の寒さに對して理想的對照である。ニースはアンゼル灣に位しバール河にあり然も山に遮られてゐな

いためリビエラの海岸よりは可成涼しいのである。ニース或はニクス―勝利の意―多くの勝利者フェニギア人、ローマ人、サラセン人を知つてゐる。そして久しい間プロベンス侯とサボーイ侯の對立的勢力の間に羽交締にされてゐたのである。

附近には各種の史蹟がある、又鷲の巢の様な岩の上に小さな村落のある部分は岩そのものから切り開いて作られてゐる。此れ等は十世紀から十三世紀に始められたものでローマ人やサラセン人の足跡を残してゐるのである。ニースでは今市長や町の役人教育者其他各方面の人々が此の聯盟の歓迎準備に忙殺されてゐる。

五 學校の視察旅行

新教育聯盟の主なる目的の一つは、全世界の教育者が彼等の疑問難點を寄せ集めて其れを解決する事である。一九三二年の會議がそれを共同解決する機會となる事を希望してゐる。會員で六月或は七月初期に時間に餘裕のある人は、各國に於ける新教育の仕事を出來るだけ多く觀察する事を熱望してゐる。彼等はフランス、ドイツ、ベルギー、スイス並びに英國に於て學校が教育的經驗の總てのタイプを實現してゐる事を自由に視察し得るであらう。

最後に現代教育上の最高の問題は、吾々是如何なる社會を創造しつゝあるか？創造する事が出來るか又創造する事を望むか？である。幸にニースに於て現今世界各國の赫々たる教育先覺者によつて此の解答が得られやうとしてゐるのである。

六 諸 注 意

- 1 出席希望者は一九三二年四月十五日までに申込票と會費二ポンド二志約十七圓を拂込む事、但し大學師範の學生は半額です。申込に關する照會は倫敦本部か各國は其國の委員に問合はすこと、日本は新教育協會に御照會下さい。
- 2 出席者は出席申込みと同時に宿泊につき四月十五日以前に完了されると、ホテル業者が特別期間として便宜を與へて呉れるがその以後では便宜が得られないかもしれない。
- 3 出席申込者が會議に出席出來ない場合は會費の九割を拂戻すこと。
- 4 宿泊料は爲替相場によつて變動するが大體次の通りである。

一 等上 等室 六圓乃至七圓 二 等 宿 泊 四、五圓 一 五、五圓
三 等 三、五圓 一 四圓 四 等 宿 泊 一圓 宿 泊 三圓。キヤ
ン 普 通 食 三圓。キヤ
ン 普 通 食 ニースのM、F、ハント氏に申込事

- 5 出席希望者に對して新教育協會は後援は出來ないが便宜の勞をとる。



質 疑 應 答

一、問 質問は經濟記事一般に亘つてして宜しうございませうか、それとも貴誌記載の講話のみの質問ですか（一般の生）

答 三、四行の説明なら、できるだけ御希望にそひたいと思つてゐます、複雑なものは紙數が限られてゐますから、悪しからず。

二、問 鐘紡の再生絹糸と東京星野化學研究所の化學純絹糸の生産費採算及糸質は如何ですか（右は養蠶番にとつて重大問題ですから）（S O 生）

答 鐘紡の再製の絹糸と大森、星野化學研究所の化學純絹糸の糸質及生産費如何に對する回答

鐘紡の再製絹糸は主として屑糸を紡績したもので富士絹、絹紬などになるもの、化學純絹糸は古絹物、屑糸、繭等凡ての絹製品及原料を化學的に處理したものである、後者はまだ實用向きとして廣く世に出て居ない様で從つて糸質の強弱も一概に評し難い。

尤も生産費は製法に依り前者よりも低廉に仕上げ得ることゝ信するも鐘紡、星野兩者につきその生産費を照合、對比することは、事、會社の秘密に屬するを以て貴問に對し満足を與へないことを遺憾とする

掌 中 曆

—— 便利な記入手帳 ——

◆ 希望者に贈呈 —— 千冊限先着順に

昭和七年三百六十六日を各週に分け、一週を一頁に盛つて各日毎に記入欄を設け、冊末にも記入頁を相當置いてある……名前の様に手のひら大の型であり、ポケットに潜ますに、がさ張らないで名實共に簡易便利に妙を得てゐる。

『神奈川縣教育』印刷所の横濱活版舎では本誌新年號の附録として一部宛寄贈した以外に、尙希望者に制限數の範圍内で寄贈致します。希望者は一部につき郵税二錢添へて直接横濱市中區住吉町五丁目横濱活版舎にお申込下さい。



情 報

教 育 會

○會計係から

職員録(六年度)代金、昨年末迄御送金の向には全部領收證送附済の筈であります、未だ御落手なき方は恐れ入りますが、催促して戴きます。

未納者數

横濱市	七	横須賀市	二
橘樹郡	三	都筑郡	二
三浦郡	二	高座郡	六
中 郡	五	足柄上郡	一
足柄下郡	三	愛甲郡	四
津久井郡	二		

右至急に御拂ひ込み下さい。

然らざれば三回目の催促状を失禮することになりますから。

○八木氏寄贈金分配方の件

八木氏遺族の方からの欠食児給與寄附金壹百圓の分配は左の如く各郡市各特別に行はれました。

横須賀市	二	川崎市	五	橘樹郡	三
三浦郡	四	高座郡	三	中 郡	六
足柄上郡	二	足柄下郡	二	愛甲郡	一
以上二十八校					

○縣民讀本及公民教本の件

本會編輯の縣民讀本及公民教本は目下品切れのため、當分販賣いたしません、問合せをうけますので爲念お断りを掲げておきます。



彙 報

唱歌科研究協議會速記

(ついで)

午後一時三十分再開

議 長

「午前につづき協議事項の第三から協議する事にいたします」

協議事項第三

各學年の指導系統を如何すべきか。

1 歌曲撰擇の標準、指導の系統

2 基本練習の系統

3 鑑賞(レコード)の撰擇配列、指導の方法、音樂的知識

協議事項第四

基本教材の系統的具體案につきて

協議事項第五

正しい發聲法の指導方法如何

(以上高座郡提出)

古 野 君 (高座、松林)

「各學年の指導系統の内容を分析的に三つに分けて考へた時、私達が普段の授業に常に忘れないのが系統であります。どうも系統づけられたものゝ圈外をさ迷ふ事が多いのであります。こうし

た方面の研究をうかどひたいと思つて提出したのでです。その三項目は自然學習に於ては混一されたものですが、今概念的に三つに別けたのであります。以上について御意見をうかどひたいと思ひます」。

足 柄 上 郡

「内容については同一であるから一緒に協議願つて差支へないと思ふが如何」。

議 長

「そうした方がよいと思ひます。では説明を願ひます」。

足 柄 上 郡

「本郡では尋四から本譜視唱をやる事になつてゐますが、然し三年から急に四年に入る所を兒童が苦しむのです。そこで成績もさがつて困るのであります。そういう點から尋四で本譜に入る前にその準備的基礎的指導を俟つて無理のない程度に自然的に視唱に入る指導過程を如何にすべきやを協議して貰ひたい」。

議 長

「それでは高座提出の第三の(1)に上郡のをつけてやりたいたと思ふ。質問がなければ意見を言つていただきます」。

椎野 君 (高座、茅ヶ崎)

「高座郡提出の第三について申上げたい。勿論四年に入つて急にやつても實力を作る事は望み得ない、やはり低學年から他の音楽的作業と共に少しづつ課さねばならない。そこで當校でも本譜視唱といふ本を作つておきました。参考にしたい。それから基本練習に於ては御存じの通り發聲發音、その他一切のものを含むので廣範圍なる爲一々言ふのははぶくけれどもとにかく系統的にその本に配列してありますから参考にしたい」。

金子 君 (高座、茅ヶ崎)

「研究雜録の中にごく獨斷的なレコード鑑賞に就いて述べておきました、その考へを言ひますと、一つは本校レコード教授の研究の發端であり、また他の諸先生の指導を仰ぐ爲なのであります。御参考になれば結構と思ひます」。

原 君 (中郡、大磯)

「この問題は大きな事で即刻には解決出来ない。まだ教科書を作るのも難かしい事です。縣に於て郡市より代表を出して適當な細目を出していただければそれが標準になる事と思ひます」。

熊澤 君 (下郡、湯本)

「今中郡からの話の様に指導系統を如何にすべきやの問題は協議してもきまらなかつたしつかりしたものが出来ないのは事實であり

ます。然しこうした所は悩みであつてただ單に形式的學問的な標準でなしに經驗からぶつた標準をききたいのであります。少くとも現代の諸先生の意見を網羅した。また私の實際に悩んだものも入つてゐるかも知れませんが、少しの時間發表していただく。今迄の唱歌教授が兒童本位、その場教育で系統的のものが無いのは事實であります。その結果童謡教授が極端にまで行はれてゐるのだと思ひます。それが輕薄であり高遠の理想に遠いと考へた縣下の童謡曲にも非常に不満に思ふものがあります。例へば黄金虫の歌詞は夢を追ふ低學年の子供にはよいが、その曲旋律を考へると非常に程度の高いものと考へます。然るに文部省でどなたが認定につとめたか知らないがこれを五年、六年に持つて行つてゐるのです。列べてみれば檢定済百いくつの中にも非教育的なものがあるのです。さればと言つて私はすぐに藝術的なものを小學校に入れようとは申しません。「足柄山の金時」は歌詞はよいが曲は非教育的なものであります。如上の見地よりして私は藝術的であり教育的なものを取入れなければならぬと信ずるのであります」文部省のも亦自信の無いものがあります。例へば「國産の歌」などは地理や歴史などには方便としてよいかも知れないがあまりに偏知的で兒童に適したものでないと思ひます。内容もやはり兒童らしいものでなければならぬと思ひます。然し必しも兒童の感情に合つたものを教へる事がすべてではない。要するに兒童的だと言ふのは理想に向つて進むに適切な心理過程であり、それが曲想にも何にも表れてゐなければならぬと考へます。最近の歌曲にはメロデーとシンフォニーと合はないものが多い。それはいけない事でやはり相當兒童に適したものでなければ

が又必要になります。ドレミハソラシドと音がありますが、それを低學年ではドレミハまで教へるといつた考を必要とします。

議 長

五番の問題正しい發聲法の指導方法如何にうつります。

塚本 君 (男師範附屬校)

その方法として低い發聲から高い發聲にさせたらと思ひます。綺麗な聲を出させるには喉をやはらかにしなければなりません。嚥下運動をするとき喉の最も自然な形ださうです。だから毎時間注意してやるやうにしてゐます。そして地聲と發聲音を混同させないやうに、口先だけ大きく開けてゐたのでは後方が開いてゐません。口の奥に力が入つてゐるから圓みのある聲はでません。そして口形圖もありきたりのものはいけないと思ひます。田村先生のつくられた口形音階圖はたいへんよいと思ひます。あの口形圖によつてあの口形を口の奥にふくむやうな心組をさせて發聲させて居ります。

椎野 君 (茅ヶ崎校)

唯今附屬の先生からお話になりましたがそれと同感であります。發聲のものと呼吸と聴覺であります。それ等が要求する所にびつたりするやうにすればよいのであります。歌詞を取扱ふ時には休止譜に注意して教へることも必要です。圓みのある聲を出すには喉を軟かに呼吸は嚥く如くせよと指導し聲はふり出す如く操る如くと注意してゐます。故意の呼吸は天意に反する寝てゐる時の如くせよと或人は言つて居ります。口形については自分の下手な模範を示します

ばなりません。要するに私達の開かんとする所は机上の空論にあらずして、お互ひに苦しんだ事を聞きたいのであります。こうした考へから先覺者の意見と私の意見を羅列したものであります。次に本譜視唱の系統案であります。縣よりその諮問について私が答を出した事があるが、その内容は先程どなたか申された様に四年で本譜視唱を始めるなら前からやつておく必要がある。學年を區切つて判然と本譜視唱をやる必要はないと思ふ。その系統を具體的に申しますと、尋常一年では五線で音の位置を知らせ尋二ではドレミソドを與へて母音を五線中に入れ、尋三では八調で順々に既習教材で興味を起させ、高等科に於ては低音部譜表までも教へる事にしたらどうかと思ふのであります。本譜視唱には基本練習の系統が是非必要で、その中では音程音調が必要であります。かうした事柄を適當に配していつたら比較的容易に出來心配する様な無理な點もなくなると考へるのであります」。

深山 先生 (平塚、高女)

私は今日はオブザーバーとして出席してゐるのですが、今の問題の本譜視唱法について愚見を申させていただきます。本譜視唱法は難かしいと言はれますが事實ほんとにやさしいことではありません。で教授者が本譜視唱法の系統案によつてやればよいのであつて、その上その人に適した案によるのが大切だと思ひます。強健術と同じ様に自分に適した案を編み出さねばなりません。リズム、讀譜音の長短など、各力を入れる時期を分けることも必要と思ひます。なほ本譜視唱は尋一からでも出來ます。リズムなども簡單なものから複雑なものへそして低學年から高學年とうつして行く時、そこに順序

が児童はなかなかまねません。それに児童は自分の口を見ることが出来ないだから口形圖を示して教室の後の鏡に向つて自分の口形を正させてゐます。

熊澤君(湯本校)

私の浅い経験も茅ヶ崎校と附屬校の方と同じでありました。或日のこと学校の歸り道編物をしながら弟を背負つて子守唄を歌つてゐる少女に會ひました。私は手を打つてこれだと思つたのです。自然に出る子守唄お人形遊びをしてゐる時の歌。子守をしてゐる時お人形遊びの時の心で歌ふ時最もよい發聲が出来るのではなからうか。で私はその心で發聲なさいと言つてゐます。とにかくそんな経験から發聲の出發點を考へました。

田村先生

先づ歌曲の選擇と指導系統についてあります。がそれは文部省のを標準に教育會や各學校でつくられた方がよいと思ひます。本譜視唱の系統案については各學校でつくられてもよいでせう。假名譜から入つて本譜へ又本譜をすぐに教へられてもよいのです。小石川訓導協議會でこの方面についてかなりに研究してゐます。このことは尋一からでも尋四からでも最後の目的は發聲が上手に視唱出来ればよいのだからいつから始めてもよいやうに考へます。レコードの方はうまい案がありません。正しい發聲について深山先生の和音を考へてやることもよいでせう。で發聲法については経験なしでは辛い所へ手がとどかない心持です。東京にたいへん巧い人がありますから私の所へお問ひあはせ下さればその人を紹介させようなるべく

團體でお出下さい。

議 長

スピードをかけて第六、第七、第八、第九の問題を一括して願ひます。

第六、思想問題よりみたる唱歌の價值と其の取扱方法如何。

第七、高學男子の本科に對する嫌厭的態度の原因と之が對策如何。

第八、鑑賞教授に於ける「アツブリエーション」と「エンジョイメント」の取扱如何。

第九、唱歌科に於て評點を附するには如何なる方法によるべきか。又其標準如何。

椎野君(茅ヶ崎校)

九番の問題についてお答します。で今までの採點の仕方はオルガンの前で聲の美醜で決定してゐました。唱歌科の本質から考へたゞ歌ふことだけではいけません。子供の音楽性の發展如何を考へてやるのが大切で、その標準を申しますと

- 1 正しく聴音するかどうか
- 2 説敏な感受性があるか
- 3 柏子讀力歌發聲發想は如何
- 4 歌ひ方は
- 5 詩的情味の理解の程度は
- 6 聲は美か醜か
- 7 子供の學習態度は善いか惡いか
- 8 既習教材の記憶程度は如何

これ等について採點の標準を定めてゐます。

松本君(前羽校)

一、私もその採點をするのにビエノの前で歌はせる一人です。唱歌教育の目的は獨唱すること、自己生命の入つた自他融合の境地で歌ひ模倣でないものでなくてはならないと思ひます。でその獨唱は茅ヶ崎校の椎野先生から言はれた條件を具備してゐることが最も必要と思ひます。それは確かな標準はそれが藝術だからきめられないのです。で教師の心持を十分に參考にしてもよいと考へます。

田中君(海老名)

高學年になると唱歌を嫌ひます。高學年は生理的に考へても變聲期だからと思ひます。だから歌はせることを少くしてゐます。そしてレコードを鑑賞させるとか音楽家のお話をきかせるとか樂典などを取扱つてゐます。

富澤君(平塚高小)

私は高等科の児童は唱歌が嫌ひになるのではなくして歌ふことがいやになるのだと思ひます。で海老名校の田中先生が發表された意見に賛成いたします。なほこの時間を他の學科に使ふことも児童に唱歌を好まなくさせる原因ではないでせうか。要するに無理に歌はせないで鑑賞を主としてゐます。

原君(大磯校)

第七についてお答します。高等科の児童の聲は區々別々になつてゐることがわかります。よくしらべてみると三つ位に分けられます

とにかく音域の分圖に分けて各それに適した歌曲を授けることも高學年の唱歌を取扱ふ方法の一つと考へます。

川口君(鎌倉第二校)

唱歌採點の標點は私達が惱める現實の問題であります。それ故今少し具體的に御指示願ひたいのであります。

松本君(前羽校)

唱歌といふ學科が藝術でありますからその本質上採點の標準を確定することは困難だと思ひます。

第六の問題について私の思索と關係づけて申します。現在思想問題に神經がとがつてゐるのでこれに少しでもふれざるを得ないのであります。善と美についてその關係をカントは云々してゐます音楽美をもつ本科も善と大いに關係があるのです。本科に於ては音楽美の直觀が究極だと考へられ廣く鑑賞させることによつて音楽美の直觀がたし得らるゝのです。アブリエーション、エジョイメントの完全な融合の姿がそれだと思ひます。だから從來のメロデーを主張する唱歌教育から抜け出て鑑賞させ歌曲によつて自他融合の境地に尊きその境地に児童の心を魂を活かせれば思想國難の現在を救ふことが十分出来るだらうと考へます。

塚本君(男師範附屬校)

唱歌は藝術教科の一つであります。美を本として児童の感情を美化し陶冶して此の社會を美しいものにすることに思ひます。人間の美意識を養ひ人生の全ての方面を美的に見る様にし、道德的

にも美的深化を見やがては立派なる人格を完成するのであると思ふ。齊唱の時は獨唱と異なる。齊唱の場合十人十色の歌ひ方をする處が藝術の生命である。齊唱については合唱の意味に使ふが多数の人の色の聲が一つに和してゐる。オーケストラを見ると別々の樂器を用ひても全てコンダクターに従ふのであつて、コンダクターの意志に反することは出来ないものである。齊唱も之に似て精神を統一してゐる。平家の都落ちの實例に見てもさうである。平氏は音程に親しんで居たので決してあそんで居たのではない。であるから滅亡の最後まで一致團結してゐたのである。今かりに平氏の場合を源氏としたならば源氏は音樂を愛して居なかつたから一の各位で散々になり恐らく壇の浦まで結束して行かれないと思ひます。これを見ても如何に音樂が精神統一に至大の關係あるかを思はせるのであります。

田村先生

六の問題については特に現時思想問題がなかなかやましい時であるから唱歌教授と關係せしめない方がよいと思ふ。七については東京の男子にもあるが多くは受験の爲めおろそかにするから好まないで、此れは教師の熱と力に依て救へると思ふ。變聲期の兒童に大きな聲を出させると咽喉を破るから低學年の様に輕い音を出させる。音域を第一學期の初めに調査して聲の變つた者、變らない者中間の者の各組を作りおよそ三段にして歌はせる變聲期の兒童の咽喉は變化し硬化して居るから、多く歌はせぬ方がよい。それ故鑑賞教材を多くするのである。八の問題についてアプリシエーションとエンジョイメントの關係に於ては眞の上手な人のピアノを開かせる

九の標點については指導者の主観に依る。併しそれに附いても何に根本を定めて行はなければならない。

議 長

- 十、遊戲ニ用フル歌曲ヲ選定スルノ件
- 十一、縣ニ於テ小學校音程教本ヲ作製スルノ件
- 十二、男女共學ハ廢シ合級的ニ取扱フ適切ナル方案
- 十三、唱歌科ノ成績ヲ地方的ニ向上セシムル良案
- 十四、十一、十二、十三の問題について説明して下さい。

熊澤君(湯本校)

先づ十の問題について子供はリズムミカルのものを好みこれにつれて體を自然に動かして行きたがるので遊戲が發達して來たのであるこれを心理的に眺めても効果があると思ふ。併遊戲の中に非教育的でしかも大膽に行はれてゐるものがある。これなどは唱歌科から見てもその教材が捨てられなければならない。それについては縣でも相當留意されてゐられる様である。とにかく遊戲は其の教材が少ないので講習會に出て教へてもらつたのを各自地方に歸つてすぐ實際の教授に役立たせてゐる様な始末だから知らず／＼の中に非教育的のものが取り入れられる様になつたのである。十一について音程練習は必要なものである。併しながら吾々小學校では音程教本を通常用ひてゐない。用ひて居るとしても中等學校のものか或ひはそれに似たものであらう。小學校としての音程教本は必要である故これは文部省で作つて頂いた方がよいと思ふ。

十二の問題について男女共學は尋五以上になると心理的にも生理

的にも異つて來るから別々に取扱つた方がよいと思ふ。

十三について同じ學校でも同一歩調で、その成績を上げて行く事は出来ない。それは教師が樂器の使用に熟練してゐることが唱歌科を不振にさせた理由である。一校ですらかくの如くなれば郡内の地方地方に於ても所によつて違ふのであると思ふ。故に郡なら郡だけでも全般的に向上させる方法がないであらうかと考へて見ますに何か會の様なものを組織することも一つの方法ではないかと思ふ。

議 長

十、十一について縣に要求されて居る様ですが縣としては出来な

鈴木君(清水校)

十二について男は男女は女として行つた方がよいと思ふが教材の點については下學年の教材から行つた方がよいと思ふ。

田村先生

出席中の所で複式教授の所がありますか、

守屋縣視學

下郡愛甲郡などありますから割合に多いと思ひます。

田村先生

十二については附屬小學校第二部で経験したことがあるが、男女合級で一長一短である。尋四まではさしたる困難もないけれども

尋五以上であつたら心理的にも生理的にも違ふから分けた方がよい

その教材は下學年を主として行ふ方がよい。例へば五年生は六年生の教材では出来ないことになる故一學期間五年生の教材を取り、二學期からは五六年の教材を交互に行ふ五、六年の二學期頃からはさしたる難點もないと思ふ。

次に地方的に成績をあげる方法としては小團體にて研究し、其研究の發表かた／＼研究會や音樂會を開いて助け合ふ方がよいと思ふ

議 長

十四の問題は大きな問題でこれまで行つた協議事項の總括的のものと思はれるので今までの中にくまれてゐた事はぬきにして御説明を願ひます。

塚本君(男師範附屬校)

教育の實際に當つて居られる方々ですから常に唱歌教育がどうしたら徹底するかと言ふことを誰でも御考へになつて居られることであらう。實は金のかゝらぬ範圍で教具の新しいもの又は郷土的色彩を帯びた教具製作の經驗を持つて居られたなら御伺ひたいと思ひます。

島君(澤校)

唱歌を日常生活と接近させ教材も兒童に接近したものを取り季節に合つたものを取ります。例へば四月頃になりますとひな祭の様なもの。その他唱歌に興味を持たせることです。今迄家庭では唱歌を止めてゐたのですから家庭に唱歌をくい入らせる方法として女

子青年會の會員達の集りのあつた時など唱歌を教へて行きます。

議 長

旭の尾崎さまさん

尾崎君(旭 校)

私の経験を考へて見ますとどうしても唱歌教育を徹底させるのは先生自身が音楽的素養を持つことを児童に親切に接することであります。

原 君(大磯 校)

教育者の實力が最も大事であります。それ故縣で講習會を開ひて頂くことが必要であり、又唱歌教育の標準を示して頂きたいと思ひます。

議 長

質疑事項に移ります。

田村先生

此の質疑事項につき時間の都合上自分に話してくれとの事であるから参考までに簡単に述べる。

I 唱歌教育と童謡に對して如何なる態度を持つべきか

所謂童謡と申すもので其の種類はかなり多敷ある。各縣から澤山出て居るが文部省では之を調査し認可済のものならば使用する事が出来る。認可の状況について申上るならば今迄出てゐる多數の童謡はどれも認可済かと云ふにそうではない、實際は半位で認可願の四分の三は不認可である。あまり打開けては悪いが第一に文部省で

やかましく云ふのは、歌曲の淋しい悲感的のものは排斥する。之は私も同感である。児童教育に於ては快活なる心情を養ふべきものを採らねばならない。濱邊に一人たゞずんで遠き思にふける様なものは採らない。又親に別れて淋しいからと云ふ様なものは用ひない方がよい。曲の上から不認可となるものもある。曲としてまとまつてゐないものは不認可となつた。トニカク即ちドミソの内の和音で始まつて最後がドで終るもの以外は検定済にならなかつた。五度のソで終つてゐるのは往々あるが五度のミで終つてゐるのは殆んどない。

三度や五度で終つたものは多く不認可であつた。陰旋法で云へばシは五度で終るものもあれば、レで止つてゐるものもある。童謡の吟味は陽旋法から陰旋法に何時變つたかと云ふ様な混合したものが澤山ある。

此の様な歌曲は構成上不可能であるから従つて不認可である。認可済になつてゐるものは確に有効なものが澤山あるから細目ローで差支ない。その爲には認可の正しい調査が必要である。

不検定不認可のものを教育會で取つて児童に教へてゐるものがあるが之は問題である。

2 高學年男女組合學校に於ける指導法

未だ恐らく人数が少なく二組にする譯にはいかぬし、それが爲學級の編成上高等科でも男女合級が現在でもある。これは私の経験から見ても聲量高低から見ても實に困る。女子は複音が出来るにも拘らず男子は個人個人どうも變聲の狀態が異なつてゐるので、非常に困難で女子に適するものと男子に適するものと混合して配列するより仕方がない。男子の方には特に移調して教へる。

私共は男子と女子の間を採つてやる。而しそれでも男子は苦し

い。女子も低音が苦しくなる。聲から申して無理な仕事であるから比較的有效な方法をとる事が必要である。

3 移調低能兒の救済法

移調は具合が悪い。變調の方が具合が良いです。之はどこでも困つた問題です。結局之は特種指導をすれば一番宜敷い。高師附屬にも難聴兒があつて調子が全部あはない。之等は女の先生に願つて晝休みに、個人指導を加へて居るが段々練習の爲に追ひついてくるものもある。多く特種指導によつて救はれる場合が多い。児童の中には噎病の者もあり、他人の前でやらぬのがある。之などは個人指導によつて良くなる。又實際力の弱いのは特に指導してやると良くなる。どうしても良くならない難聴兒もあります。

東京本所深川には非常に多く五十二人中七人もあり、その中の一人は中耳炎であるが如何ともすることが出来ないがあつた。私が三部の部長の時唱歌のみならず他にも鼻と耳とを治療することに依り知能がよくつたのがある。

それでも如何ともすべからざる児童はどうしても困る。變な聲を出すので統齊美を失ふことになる。力の弱い子供には良くそばに唱ふ子供をつけてやるとよいが音痴、難聴兒は手がつけれられない。それ以上の考へは今の處持つて居りません。

4 複式學級に於る教材の選擇取扱上の注意

尋常四年までは複式にても聲から云つても、教材から云つても男女の明なる區別はいらぬが、高學年になると大部分考慮を要する。複式での教材は大體一學期間に低學年に重きを置いて二學期から各學年を交互に配當することが良い方法だと考へて居ります。

5 變聲期兒童の適當なる取扱法

之も先刻の話の通り高等科兒童は身體が急に大きくなつて、咽喉に急激な變化を來すものである。かかるものは發聲をさせないで二週間激しいのは三週間位休ませる必要がある。その他概して女子の變化は男子に比して咽の變化が少ない。聲變りの激しいのは男子であるから私が一昨年此の講堂で話した通り成るべく聲を少なく使はせ、二オクターブ位下げて調子を低くし列を三つ位に別けて練習するのがよい。其の方法は

全く變らぬもの、中途にあるもの、全く變つたものとに別ける。

全く變らぬものと全く變つたものとは、オクターブ異つて全く同じであるから一時に取扱ふ事が出来る。變聲期にかかつた時は從來出した高い音が出なくなる。顔面が赤くなつて叫ぶやうになるからその時にわかる。外國の教授法は高い音が消されのを見て變聲に這入つたことを知るのである。喉を調べると眞赤になつて感冒と同じ現象である。その時は病的になつてゐるからすぐ解る。

6 唱歌教育と教材選定の必要

之は先程からの希望により教育會の機關が設けられ、教材が制定せらるる事が出来れば之を参考にすれば便利である。之れ以上は理屈はないと思ひます。

7 正しき發聲に導く具體的方法

具體的方法是困難である。意見發表中の個々の實驗談を參考として、尙深山先生の發聲法も參考にして御考慮をお願いします。

9 文部省唱歌集は各學年に教授さるべき各種の目的が統一せられた形によつて編集せられてゐるかといふことに對してお答へいたします。

勿論不完全なれども各學年の標準を示さんとして、今回更に修正

して來年三月頃までには出来ると思ふ。之も延びるかも知れない。修正だから割合に早く出来るだらう。大體あれに準據してする様にしても良いと考へられる。缺點は三拍子が五年からある事です。もつと前に課してよいと思はれます。音楽の始めは三拍子であつて、之は踊から來てゐるものです。詩—音楽—踊から來てゐる。強弱々、タータッタ、タータッタの方が踊り易い。○は三拍子Cは四拍子であつた。こう云ふ點から三拍子の方が唱歌發達の過程から見てずつと早く出て來てゐる音楽協會出版の本では二年から這入つてゐる。その他「ヨイ」があるが度々研究されて修正出来ればよくなる事と思ふ。

9 男生に唱歌愛好せしむる具體案

之も矢張り教師その人にある。先生は教育の熱と愛とを以つて何と云つても修練された技術で臨むと良い。熱と愛とで教師が當ればどん／＼上達す、其他色々あるだらうから。御話合を願ひ度い。

10 樂典を趣味づけて指導する法

之は十二番と同一と見て差支ないと思ひます。樂典は樂典と歌ふ事を別にして授けるから非常に困難になるのである。而し只今ではそんな事をする人はいないでせうが一つの記號を教へる材料としないうで深山さんのお説の通り段々と授けて指導して行く事がよい。

11 唱歌室建設上の諸條件

之は教室が御案内の通り物理學上の見地から見ると、廣さ一に對して高さ二で長さは二以上とするといやうである。高さが一、五ならば音響の比例にも好適である。それから私の考へでは、樂器はピアノが一番よいと思ひます。尙出来ればオルガンと兩方あればよいのです。出来なければオルガンと蓄音器だけでもあればよいので

すが、此の頃は安くなりましたからビクタールの八十圓のなら鑑賞用に用ひられます。ここにあるが4の3で二百圓位でせう。學校長の證明があれば安く買へます。一昨年は三百五十圓位でした。この位のがあると良いですがね、それからザールドに五線を引くのであるが黒い黒板なら白線がよい。

幅は太いと目に繁雜故、東京設備員の研究によると幅一分、それで段々進むと四段要るが場合によれば二段でもよい。長さ六尺のものを二段複音等になると多いが二段用ひるのは小學校としては外國に多いやうである。二段になると教師が樂である。四段になると書くのに教師が苦しいから不便である。臺を置いて書いたります。

ブリーブラックのものは黄の濃いのを引いた方がよい。それに白墨で書くのと附點に都合がよい。一年位たつて艶がなくなると白味と黄味とが不明瞭で困る場合がある。外國の様に布でふくと直ぐ乾くのがよい。

外國ではきれいに水をひたしてふく。ピアノではドイツは教壇なくボードだけで樂器のまはり圓を畫いて授けてゐる。眞中に置いてやるが普通の様にすると樂器ははたい置いて、その時には樂器の高音部を児童に近く置く事がよい。右の場合は葬式の場合で西洋人は非常に忌むものである。

高音部はお客に近く、懸掛は私の經驗上二人掛にして筆寫する板を造りつけにするといふ。東京市は經費の關係上大多數はそれである掛圖その他を本校（茅ヶ崎校）のやうに教師自身で作るのは非常によい。中には賣品の方が良くて安いものもある。圓形をなほす鏡之は東京の新設學校には大部分ある正面はいけなから裏か横にかけてある。特に必要の児童はその鏡に向はせて使ふ。なるべく南向の暖

な所に置くべきものである。唱歌を歌ふのは温度に關係があるからであります。

壁色は薄桃色に染める時は一年たつと丁度色がさめて工合よく暖味があつて感じがよい。鐵筋コンクリートは反響が大ですから吹付をする。之は子供が悪戯をするから落易い。寧ろ布の方がよい。つるつるした壁は反響が多い、鐵筋コンクリートならば反響の少ない様にするが肝要である。高師は天井が高いから講習會の時には布を中途にはるすると聴衆の音を皆吸収するから丁度よくなる。

13 學校音楽を社會に普及する方案

この方案も取り度ひのだが之は文部省の何時か會があつた時答申案として出したのですが、要するに青年團を指導する機會あるごとに指導するのがよいのだが、學校音楽と家庭音楽との間に距離がある。私達も民衆的のものを譲歩して段々接近しなければならぬのだと思ふ。答申案には理屈をつけたが大した方法はない。年に一學期二學期音楽會學藝會等に於て父兄に鑑賞せしめる事がよい。

14 思想善導に對して特に有効ならしむる唱歌教育上の努力點
先程申した様に唱歌教育上の努力點は申上げかねる。研究問題として研究され度い。

15 鑑賞に對して音楽史の平易なる取扱ひ

之は程度問題で非常な重要な事であるが、時間上そうはいかんなら五、六年に對して一時間位指導したらよい。時代分けの標準によつて此處に書きます。

ベハ、ヘンデル、特に取り寄せたるものの外これ以前はない。ハイドン、フーベ、モツアルト、ベートウベン、このベートウベンの一番末期の耳がつんぽになつたあたりから後ですな。前半より後

ですが此の時代をクラシック、古典樂と云ふ。之の時はハアモーニが非常に奇麗で和音が奇麗です。ところがここにクラシック、ミウジック、ベートウベンのシンフォニーソナタが今日では一番絶頂である。所でソナタ、シンフォニーは開いて長いので今の人間には合はない。そこでローマンティックな短くしたものがベートウベンの末期に於て出て來た。

今はかまはないけれどもシューベルトはシューバート、ウェーイベルはウェーイバーがよい。之は皆獨逸人である。ショパンは佛人である。

ベートウベンの末期から此處までがローマンティック、ミュージックである。それからこのワグナーの末期はプログラム、ミュージックと云ふのを導いたのです。

ワグナーの末期から取扱いてはならぬものを挙げればベルリオーズ、ストラウスで此の人はウインに居りまして私共は常に會見しましたが近頃の大作曲家です。

ワグナーの末期から標題音楽に導いて居るのであつてストラウス以後は現代の音楽が色々起つてゐるけれども、何れも皆代表的なものである。殊にこの人達は現在生きて居る人であります。

古典音樂ではこのあたりのものか代表的なものをとり浪漫音樂又は標題音樂からはこのあたりの代表的なものをとりそんな風にして、簡単に示して置けばよいと思ふ。之は詳しくすれば非常に長い問題となる。

鑑賞の問題はレコードが主となる。東京ではこのレコードの調査に年數をかけたが、その調査はよつて吹込のどの部分がカットしてあるか調べまして之を用ふる。會社によつては抜けた部分が異なる。

樂曲の聯絡の上から考へまして描寫音樂行進曲は多數あるけれども今まで出來た會社の作品を調査して分類に依り、代表的ものを聴いて載き度いと思ひまして、此處に持参しましたが時間の都合上中止いたします。

河邊議長

未だ田村先生のお話を伺ふ豫定でしたが、大變遅くなつたしこの機會は今日ばかりではないから今日は取り止めに致し度いと思ひます。

尙刷物の内に希望事項が二つあつた。其の内一つは濟んでゐるが後のものについて申すと、それは學校長に於て他の教科を割愛する様に各位からお願ひすればよい。田村先生のお話を充分お伺ひする事が出來ないのは残念である。本日は會員各位の熱心なる研究に對して深謝致します。殊に田村先生には熱心に御指導下さつて誠に感謝する次第で御座います。

此の會を開くに當りまして町長さんや當校の校長職員が非常に便宜を計られた事に對して縣當局として感謝する次第であります。偕て唱歌教育は兒童教育上實に重大なる關係を有するものであり、殊に唱歌が持つ感情陶冶は今日の世想から見て甚だ必要を痛感する。

諸君も其の意を諒とせられ本教科の發展に努力せられんことを望むものである。何事でも理想に對して統一が必要であるが、諸君も理想を書いて統一させねば眞の成績は上らない。理想に向つて突進せられん事を切望するものである。町長さんが外國の唱歌教育が進歩して羨ましい。日本に於てもラヂオによりレコードによつて追々普及される事と思ふと申されたが、日本人は歐米二百年の文明を僅

の年數に取り入れ外國に劣らぬ様に完成したと申され

たが實際にその通りで近き將來に於て必ずや外國に劣らぬ國民的音樂向上の美果をおさめるであらうと信ずる。(拍手)

終

地理研究

協議會

報告は都合に依り二月號に掲載す

本誌定價

一部 金貳拾五錢

一年分前納 金貳圓五十錢

本誌廣告料

特別頁	一頁 十圓	半頁 五圓
普通頁	一頁 五圓	半頁 三圓
三ヶ月以上連續掲載		割引
六ヶ月以上連續掲載		割引

昭和七年一月八日印刷
昭和七年一月十日發行

發行所 神奈川縣教育會
振替貯金口座東京三三三番

編輯人 吉田清太郎
發行人 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地

印刷人 鈴木清五

印刷所 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地
横濱活版舎
(電話長青町五〇六七番)

初等實際的研究叢書

原稿募集

新教育の建設は決して理論的教育家の常套的言説によつて爲されるものではない。長い教壇生活が紡ぎ上げた體驗や心と心の觸れあふ教室に生れた研究こそこの殿堂の基礎である。教育界は今やかうした體驗と研究の出現を待望して居る。然るにそれらの貴いものは空しく光を裏んで砂の中にあるのではないか。本叢書はこの貴重なる體驗と眞摯なる研究に出現の機會を與へて、全日本の教育家に呼掛けさせようとする文化運動の一施設として企てられた。偏に各位の援助と推獎を俟つ所以である。原稿の種類は初等教育に關する各種の實際的研究、教育界に貢獻する自信あるものに限る。

分量は二十字詰十行原稿用紙五百枚内外のこと。用紙は隨意。
表に「研究叢書原稿」と朱書して育英書院編輯部宛に送られたい。應募原稿はまづ編輯部にて豫選し、其種類に従ひ、斯道の權威者の査閱を乞ひ、隨時パンフレットとして發表する。發表に際しては應募者の承認を得、かつ相等の印税又は原稿料を支拂ふ。選に洩れた原稿は返送する。

東京市牛込區白銀町二十九番地

育英書院

第三十号

教習所
十六

會育館藏本